

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
家政学総合研究	家政学研究科 共通科目	1	2	被服学、食物学、建築・デザイン、児童学の各分野における社会的な課題を把握し、課題解決に向けた研究のあり方、専門的な知識・能力の応用する事例について学ぶと共に、多様な分野・立場の異なる人々と協働し、客観性・自律性、課題発見・解決力、リーダーシップという汎用の能力を修得する。	1. 知識基盤社会を支える人材として、被服学、食物学、建築・デザイン、児童学における高度な知識・技術と高い倫理観を身につけ、いかなる場合においても適切に能力を発揮できる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 将来の社会や環境の変化に対応するために、被服学、食物学、建築・デザイン、児童学に関する高度な学識に基づき、いかなる場合においても主体的に思考し、自律的に行動することができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 被服学、食物学、建築・デザイン、児童学の果たす社会的役割を明確に理解し、研究成果の社会実装による課題解決、新たな社会的・経済的価値の創出、もしくは、人間的・社会的意義の探求の観点から客観的に説明できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 4. 被服学、食物学、建築・デザイン、児童学における多様な課題を発見し、論理性や批判的思考に基づき、自ら課題解決に向けて精緻な仮説を構築し、適切に検証することができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 5. 被服学、食物学、建築・デザイン、児童学という異分野・立場の異なる人々と協働により、客観性・自律性、課題発見・解決力、リーダーシップ等の汎用の能力を修得し、計画的に行動することで被服学、食物学、建築・デザイン、児童学の発展に寄与し、広く社会に貢献することができる。(DP3 リーダーシップ)	1. 知識基盤社会を支える人材として、被服学、食物学、建築・デザイン、児童学における高度な知識・技術と高い倫理観を身につけることができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 将来の社会や環境の変化に対応するために、被服学、食物学、建築・デザイン、児童学に関する高度な学識に基づき、主体的に思考し、自律的に行動することができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 被服学、食物学、建築・デザイン、児童学の果たす社会的役割を理解し、研究成果の社会実装による課題解決、新たな社会的・経済的価値の創出、もしくは、人間的・社会的意義の探求の観点から説明できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 4. 被服学、食物学、建築・デザイン、児童学における多様な課題を発見し、論理性や批判的思考に基づき、自ら課題解決に向けて仮説を構築し、検証することができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 5. 被服学、食物学、建築・デザイン、児童学という異分野・立場の異なる人々と協働により、客観性・自律性、課題発見・解決力、リーダーシップ等の汎用の能力を修得し、計画的に行動することで、広く社会に貢献することができる。(DP3 リーダーシップ)
被服材料学特論	家政学研究科 被服学専攻	1	2	被服に用いられる繊維の物性と構造の関係について総合的に学修する。特に、高強度繊維の構造と物性の関係について学修することを通じて、紡糸過程での高分子の配向制御と構造形成について理解する。また、高分子の結晶化について、その物理理論の基礎を学修する。さらに、最新の成形加工技術である Additive Manufacturing について、原理と実践を学修する。	1. 繊維の構造について、高分子の特殊性を理解した上で説明することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 繊維の紡糸過程での構造形成について、高分子の特徴を理解した上で説明することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 3. 高分子の結晶化について、理論的に説明することができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 4. 社会的・経済的価値の創出に向けて、被服材料に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 5. 課題解決に向けて、被服材料に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力)	1. 繊維の構造について、基本的なことを説明することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 繊維の紡糸過程での構造形成について、基本的なことを説明することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 3. 高分子の結晶化について、現象論的に説明することができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 4. 社会的・経済的価値の創出に向けて、被服材料に関する専門的な知識・技能を活用できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 5. 課題解決に向けて、被服材料に関する専門的な知識・技能を活用できる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力)
被服材料学演習	家政学研究科 被服学専攻	2	2	被服に用いられる繊維の物性と構造の関係について総合的に学修する。特に、高強度繊維の構造と物性の関係について学修することを通じて、紡糸過程での高分子の配向制御と構造形成について理解する。また、高分子の結晶化について、その物理理論の基礎を学修する。さらに、最新の成形加工技術である Additive Manufacturing について、原理と実践を学修する。グループディスカッションにより被服材料による課題解決や社会的・経済的価値の創出についても検討する。	1. 繊維の構造について、高分子の特殊性を理解した上で説明することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 繊維の紡糸過程での構造形成について、高分子の特徴を理解した上で説明することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 3. 高分子の結晶化について、理論的に説明することができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 4. 社会的・経済的価値の創出に向けて、被服材料に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 5. 課題解決に向けて、被服材料に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 6. 専門的な知識・技能の異なる他者と協働し、被服材料による課題解決や社会的・経済的価値の創出について建設的な議論ができる。(DP3 リーダーシップ)	1. 繊維の構造について、基本的なことを説明することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 繊維の紡糸過程での構造形成について、基本的なことを説明することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 3. 高分子の結晶化について、現象論的に説明することができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 4. 社会的・経済的価値の創出に向けて、被服材料に関する専門的な知識・技能を活用できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 5. 課題解決に向けて、被服材料に関する専門的な知識・技能を活用できる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 6. 専門的な知識・技能の異なる他者と協働し、被服材料による課題解決や社会的・経済的価値の創出について議論ができる。(DP3 リーダーシップ)
被服管理学特論	家政学研究科 被服学専攻	1	2	繊維製品の素材、染料、媒染剤、加工剤とその分析法、繊維製品の劣化の要因とその影響、繊維製品の洗浄、保存、管理について学ぶ。さらに、洗濯や染色に関する課題を見つけ、実験的に検証する手法を学ぶ。	1. 繊維製品の洗濯、保存、管理に関する専門知識を正確に説明できる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 理解した内容をプレゼンテーションソフトを用いてわかりやすく説明することができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 洗濯や染色に関する課題を見つけ、実験計画をたて、適正な実験を行うことができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 4. 実験結果を深く考え、考察した後、文献を利用して論文形式の研究レポートを書くことができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 5. 論文講読や研究レポートの作成を通して、さらなる課題を見出すことができる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割)	1. 繊維製品の洗濯、保存、管理に関する専門知識を理解できている。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 理解した内容をプレゼンテーションソフトを用いて説明することができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 洗濯や染色に関する課題を見つけ、実験計画をたて、実際に実験を行うことができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 4. 実験結果をまとめて、レポートを書くことができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 5. 論文講読や研究レポートの作成を通して、さらなる課題を見出すことができる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割)
被服管理学演習	家政学研究科 被服学専攻	2	2	繊維製品の素材、染料、媒染剤、加工剤とその分析法、繊維製品の劣化の要因とその影響、繊維製品の洗浄、保存、管理について学ぶ。さらに、洗濯や染色に関する課題を見つけ、実験的に検証する手法を学ぶ。グループディスカッションにより、被服管理学に関する知識・技能を応用した課題解決や社会的・経済的価値の創出についても検討する。	1. 繊維製品の洗濯、保存、管理に関する専門知識を正確に説明できる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 理解した内容をプレゼンテーションソフトを用いてわかりやすく説明することができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 洗濯や染色に関する課題を見つけ、実験計画をたて、適正な実験を行うことができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 4. 実験結果を深く考え、考察した後、文献を利用して論文形式の研究レポートを書くことができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 5. 論文講読や研究レポートの作成を通して、さらなる課題を見出すことができる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 6. 専門的な知識・技能の異なる他者と協働し、被服管理学に関する知識・技能を応用した課題解決や社会的・経済的価値の創出について建設的な議論ができる。(DP3 リーダーシップ)	1. 繊維製品の洗濯、保存、管理に関する専門知識を理解できている。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 理解した内容をプレゼンテーションソフトを用いて説明することができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 洗濯や染色に関する課題を見つけ、実験計画をたて、実際に実験を行うことができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 4. 実験結果をまとめて、レポートを書くことができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 5. 論文講読や研究レポートの作成を通して、さらなる課題を見出すことができる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 6. 被服管理学に関する知識・技能を応用した課題解決や社会的・経済的価値の創出について議論ができる。(DP3 リーダーシップ)
染色学特論	家政学研究科 被服学専攻	1	2	アパレル生産における染色加工工程はどのように行われるかを理解する。その工程で使われる染料の種類と性質、染料の色が見えるしくみ、測色と表色の方法、染色法、染まるしくみ、染色堅牢度及びその試験法や応用法などについて学ぶ。また、染色品に対するクレーム、染色加工が地球環境に与える影響などを知る。工業染色の技法についても学ぶ。	1. 繊維製品には、各種の染色、加工がなされていることを理解し、説明できる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 染料、染色と各種加工に関して、科学的に説明できる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 3. 修得した知識と技能により、ファッション・アパレル関連業務において的確な判断ができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 4. ファッション素材の取り扱いに関して染色の観点から科学的な視点を持つ事ができるようになる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)	1. 繊維製品には、各種の染色、加工がなされていることを理解する。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 染料、染色と各種加工に関して、簡単に説明できる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 3. ファッション・アパレル関連業務において修得した知識と技能を生かすことができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 4. ファッション素材の取り扱いに関して関心を持つことができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)
被服環境学特論	家政学研究科 被服学専攻	1	2	人間を取りまくさまざまな環境に対応するための衣服について理解を深める。機能的で快適、かつ健康な衣生活を実現するために、環境と人間特性との関係に軸をおいた衣服研究の方法を学修する。	1. 被服が有する諸機能のうち被服と環境のかかわりを自然科学および社会科学的な見地から理解し説明できる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 環境、被服、人体のかかわりを考え問題点について思考し、解決のための方法論を考え結論を導きだすことができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 社会的・経済的価値の創出に向けて、被服環境学に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 4. 課題解決に向けて、被服環境学に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力)	1. 被服が有する諸機能のうち被服と環境のかかわりを自然科学または社会科学的な見地から理解できる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 被服と環境のかかわりを考え問題点について思考し、解決のための方法論を考えることができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 社会的・経済的価値の創出に向けて、被服環境学に関する専門的な知識・技能を活用できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 4. 課題解決に向けて、被服環境学に関する専門的な知識・技能を活用できる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力)
被服環境学演習	家政学研究科 被服学専攻	2	2	人間を取りまくさまざまな環境に対応するための衣服について理解を深める。機能的で快適、かつ健康な衣生活を實現するために、環境と人間特性との関係に軸をおいた衣服研究の方法を学修する。グループディスカッションにより、被服環境学に関する知識・技能を応用した課題解決や社会的・経済的価値の創出についても検討する。	1. 被服が有する諸機能のうち被服と環境のかかわりを自然科学および社会科学的な見地から理解し説明できる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 環境、被服、人体のかかわりを考え問題点について思考し、解決のための方法論を考え結論を導きだすことができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 社会的・経済的価値の創出に向けて、被服環境学に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 4. 課題解決に向けて、被服環境学に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 5. 専門的な知識・技能の異なる他者と協働し、被服環境学による課題解決や社会的・経済的価値の創出について建設的な議論ができる。(DP3 リーダーシップ)	1. 被服が有する諸機能のうち被服と環境のかかわりを自然科学または社会科学的な見地から理解できる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 被服と環境のかかわりを考え問題点について思考し、解決のための方法論を考えることができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 社会的・経済的価値の創出に向けて、被服環境学に関する専門的な知識・技能を活用できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 4. 課題解決に向けて、被服環境学に関する専門的な知識・技能を活用できる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 5. 専門的な知識・技能の異なる他者と協働し、被服環境学による課題解決や社会的・経済的価値の創出について議論ができる。(DP3 リーダーシップ)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	到達目標 (成績評価C)
アパレル行動論特論	家政学研究科 被服学専攻	1	2	マーケティング戦略の基本を踏まえながら、消費者意識および行動の変化と、それに対応するアパレルを中心とした企業のマーケティング戦略を、ケーススタディを交え講義する。また、演習の時間を設け、理論に基づいて実際にマーケティングプランを作成することにより、基本的応用力を身につける。	修士の学生として、講義と演習を通じ、アパレル企業戦略・マーケティング戦略に関する総合的な理解力の養成を図り、基本的な応用力を身につける。 具体的到達目標として、以下の4点を挙げる。 1. アパレル関連企業のマーケティング戦略について、資料を通して理解ができ、問題点を指摘できるようになる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 与えられた課題に対し、基本的なマーケティングプランを作成することができるようになる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 社会的・経済的価値の創出に向けて、アパレル企業戦略・マーケティング戦略に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 課題解決に向けて、アパレル企業戦略・マーケティング戦略に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力)	修士の学生として、講義と演習を通じ、アパレル企業戦略・マーケティング戦略に関する総合的な理解力の養成を図り、基本的な応用力を身につける。具体的到達目標として、以下の3点を挙げる。 1. アパレル関連企業のマーケティング戦略について、資料を通して理解ができるようになる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 与えられた課題に対し、初歩のマーケティングプランを作成することができるようになる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 社会的・経済的価値の創出に向けて、アパレル企業戦略・マーケティング戦略に関する専門的な知識・技能を活用できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 4. 課題解決に向けて、アパレル企業戦略・マーケティング戦略に関する専門的な知識・技能を活用できる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力)
アパレル行動論演習	家政学研究科 被服学専攻	2	2	マーケティング戦略の基本を踏まえながら、消費者意識および行動の変化と、それに対応するアパレルを中心とした企業のマーケティング戦略を、ケーススタディを交え講義する。また、演習の時間を設け、理論に基づいて実際にマーケティングプランを作成することにより、基本的応用力を身につける。グループディスカッションにより、マーケティング戦略や消費者意識および行動の変化による課題解決や社会的・経済的価値の創出についても検討する。	修士の学生として、講義と演習を通じ、アパレル企業戦略・マーケティング戦略に関する総合的な理解力の養成を図り、基本的な応用力を身につける。 具体的到達目標として、以下の5点を挙げる。 1. アパレル関連企業のマーケティング戦略について、資料を通して理解ができ、問題点を指摘できるようになる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 与えられた課題に対し、基本的なマーケティングプランを作成することができるようになる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 社会的・経済的価値の創出に向けて、アパレル企業戦略・マーケティング戦略に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 4. 課題解決に向けて、アパレル企業戦略・マーケティング戦略に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 5. 専門的な知識・技能の異なる他者と協働し、アパレル企業戦略・マーケティング戦略による課題解決や社会的・経済的価値の創出について建設的な議論ができる。(DP3 リーダーシップ)	修士の学生として、講義と演習を通じ、アパレル企業戦略・マーケティング戦略に関する総合的な理解力の養成を図り、基本的な応用力を身につける。具体的到達目標として、以下の3点を挙げる。 1. アパレル関連企業のマーケティング戦略について、資料を通して理解ができるようになる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 与えられた課題に対し、初歩のマーケティングプランを作成することができるようになる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 社会的・経済的価値の創出に向けて、アパレル企業戦略・マーケティング戦略に関する専門的な知識・技能を活用できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 4. 課題解決に向けて、アパレル企業戦略・マーケティング戦略に関する専門的な知識・技能を活用できる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 5. 専門的な知識・技能の異なる他者と協働し、アパレル企業戦略・マーケティング戦略による課題解決や社会的・経済的価値の創出について議論ができる。(DP3 リーダーシップ)
被服造形学特論	家政学研究科 被服学専攻	1	2	着衣基本としての人体と被服のかかわりを静的・動的に捉え、体型に適した着心地の良い衣服設計を追求するための諸要因や評価法について理解し、着用者の満足度の高い被服造形のあり方を学修する。	1. 人体と被服のかかわりを静的・動的に捉え、研究者の視点から諸要因や評価法について理解できる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 2. 着心地の良い衣服設計における諸問題を認識し、解決に導くための研究方法等を考察することができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力)	1. 人体と被服のかかわりを静的・動的に捉え、諸要因や評価法について理解できる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 2. 着心地の良い衣服設計における諸問題を認識することができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力)
被服造形学演習	家政学研究科 被服学専攻	2	2	着衣基本としての人体と被服のかかわりを静的・動的に捉え、体型に適した着心地の良い衣服設計を追求するための諸要因や評価法について理解し、着用者の満足度の高い被服造形のあり方を学修する。グループディスカッションにより、被服造形に関連した社会的・経済的価値や学術的・文化的価値の創出についても検討する。	1. 人体と被服のかかわりを静的・動的に捉え、研究者の視点から諸要因や評価法について理解できる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 2. 着心地の良い衣服設計における諸問題を認識し、解決に導くための研究方法等を考察することができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 3. 専門的な知識・技能の異なる他者と協働し、被服造形に関連した社会的・経済的価値や学術的・文化的価値の創出について建設的な議論ができる。(DP3 リーダーシップ)	1. 人体と被服のかかわりを静的・動的に捉え、諸要因や評価法について理解できる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 2. 着心地の良い衣服設計における諸問題を認識することができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 3. 被服造形に関連した社会的・経済的価値や学術的・文化的価値の創出について議論ができる。(DP3 リーダーシップ)
被服平面造形学特論	家政学研究科 被服学専攻	1	2	日本の伝統的の衣服の形状および構造を、文献資料、絵画資料、実物資料、修復および復元報告事例を通して体系的に理解する。その知識を基に時代ごとの衣服の特徴を総合的に考察できるようにする。また染織文化財の保存に関わる実践的取り組みを通して染織品の的確な保存の在り方について検討する。	1. 日本の伝統的の衣服における形状、構造、寸法、縫製、裁断に関する知識を関連付けて染織文化財を理解し的確に説明することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 染織文化財の作品の時代的特徴を予測することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 3. 作品の特徴に合わせて的確な保存方法を理解し的確に説明ができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 4. 作品の特徴に合わせて的確な収納品を制作することができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 5. 学術的・文化的価値の創出に向けて、被服平面造形学に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 6. 課題解決に向けて、被服平面造形学に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力)	1. 日本の伝統的の衣服における形状、構造、寸法、縫製、裁断に関する知識を理解し説明することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 染織文化財の作品の時代的特徴を理解することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 3. 作品の特徴に合わせて保存方法を理解し説明ができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 4. 作品の特徴に合わせて収納品を制作することができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 5. 学術的・文化的価値の創出に向けて、被服平面造形学に関する専門的な知識・技能を活用できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 6. 課題解決に向けて、被服平面造形学に関する専門的な知識・技能を活用できる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力)
被服平面造形学演習	家政学研究科 被服学専攻	2	2	日本の伝統的の衣服の形状および構造を、文献資料、絵画資料、実物資料、修復および復元報告事例を通して体系的に理解する。その知識を基に時代ごとの衣服の特徴を総合的に考察できるようにする。また染織文化財の保存に関わる実践的取り組みを通して染織品の的確な保存の在り方について検討する。グループディスカッションにより、日本の伝統的の衣服や染織文化財に関連した学術的・文化的価値の創出についても検討する。	1. 日本の伝統的の衣服における形状、構造、寸法、縫製、裁断に関する知識を関連付けて染織文化財を理解し的確に説明することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 染織文化財の作品の時代的特徴を予測することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 3. 作品の特徴に合わせて的確な保存方法を理解し的確に説明ができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 4. 作品の特徴に合わせて的確な収納品を制作することができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 5. 学術的・文化的価値の創出に向けて、被服平面造形学に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 6. 課題解決に向けて、被服平面造形学に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 7. 専門的な知識・技能の異なる他者と協働し、被服平面造形学による課題解決や学術的・文化的価値の創出について建設的な議論ができる。(DP3 リーダーシップ)	1. 日本の伝統的の衣服における形状、構造、寸法、縫製、裁断に関する知識を理解し説明することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 染織文化財の作品の時代的特徴を理解することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 3. 作品の特徴に合わせて保存方法を理解し説明ができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 4. 作品の特徴に合わせて収納品を制作することができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 5. 学術的・文化的価値の創出に向けて、被服平面造形学に関する専門的な知識・技能を活用できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 6. 課題解決に向けて、被服平面造形学に関する専門的な知識・技能を活用できる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 7. 専門的な知識・技能の異なる他者と協働し、被服平面造形学による課題解決や学術的・文化的価値の創出について議論ができる。(DP3 リーダーシップ)
被服意匠学特論	家政学研究科 被服学専攻	1	2	現在、ファッション産業を取り巻く環境が大きく変化している。本科目では、被服デザインとファッションデザインの概念をもとに、企画発想から製品設計、生活者へのアプローチの仕方まで、様々な視点で検討する。他業界事例も含めて調査・検証を行う。さらにこれらの調査をもとに新しい企画を創造し、検討する。	1. 学術論文等の文献を精読し、その内容を理解した上で、新規かつ有用な情報について説明ができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 被服デザインとファッションデザインの概念を理解し、事例を挙げて具体的な提示をしなが説明できる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 3. 市場動向の分析方法を理解、実践して新しい視点で企画・デザイン提案ができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)(DP2-2 課題発見・解決力一社会的役割一課題解決力)	1. 学術論文等の文献を精読し、その内容を理解した上で、有用な情報について説明ができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 被服デザインとファッションデザインの概念を理解し、説明ができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 3. 市場動向の分析方法を理解、実践して企画・デザイン提案ができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)(DP2-2 課題発見・解決力一社会的役割一課題解決力)
被服意匠学演習	家政学研究科 被服学専攻	2	2	現在、ファッション産業を取り巻く環境が大きく変化している。本科目では、被服デザインとファッションデザインの概念をもとに、企画発想から製品設計、生活者へのアプローチの仕方まで、様々な視点で検討する。他業界事例も含めて調査・検証を行う。さらにこれらの調査をもとに新しい企画を創造し、検討する。グループディスカッションにより、被服デザインとファッションデザインに関連した社会的・経済的価値や学術的・文化的価値の創出についても検討する。	1. 学術論文等の文献を精読し、その内容を理解した上で、新規かつ有用な情報について説明ができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 被服デザインとファッションデザインの概念を理解し、事例を挙げて具体的な提示をしなが説明できる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 3. 市場動向の分析方法を理解、実践して新しい視点で企画・デザイン提案ができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 4. 専門的な知識・技能の異なる他者と協働し、被服デザインとファッションデザインに関連した社会的・経済的価値や学術的・文化的価値の創出について建設的な議論ができる。(DP2-2 課題発見・解決力一社会的役割一課題解決力)(DP3 リーダーシップ)	1. 学術論文等の文献を精読し、その内容を理解した上で、有用な情報について説明ができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 被服デザインとファッションデザインの概念を理解し、説明できる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 3. 市場動向の分析方法を理解、実践して企画・デザイン提案ができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 4. 被服デザインとファッションデザインに関連した社会的・経済的価値や学術的・文化的価値の創出について議論ができる。(DP2-2 課題発見・解決力一社会的役割一課題解決力)(DP3 リーダーシップ)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
服装史特論	家政学研究科 被服学専攻	1	2	本授業は、絵画作品及び実物資料の画像を通して「服」の歴史を読み解く、服装史を学ぶ上で重要なポイントとなるシルエット、色彩、テクスチャーといったスタイル(様式)に加え、装飾や縫製方法などのディテール(細部)の特徴を捉える。古代から20世紀半ばまでを概観する。	1. 西洋の服装の歴史における既往の研究を俯瞰した上で、新たな学術的・文化的価値の創出が期待される研究課題を設定することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 研究課題について学術的な見地から知識・理解を深め、課題を解決することの学術的・文化的な意義を的確に説明でき、専門家と円滑なコミュニケーションがとれる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 自ら設定した研究課題について研究方法を多面的に検討し、具体的な研究計画に基づいて研究を実行できる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)	1. 西洋の服装の歴史における基本的な既往の研究を把握した上で、自ら研究課題を設定することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 研究課題について知識・理解を深め、課題を解決することの学術的・社会的な意義を説明できる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 自ら設定した研究課題について具体的な研究方法を検討し、研究を実行することができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)
染織文化史特論	家政学研究科 被服学専攻	1	2	日本人の衣生活のなかで様々な染織技法や繊維素材、色材などが用いられ、これらがさらに意匠と組み合わせられて一つの染織品が出来上がっている。これを理解するには実際の作品を見ることが必須となる。本科目では、日本の各時代の染織・服飾の実作品を目的にしながら、講義形式でその技法や意匠の内容を理解するとともに、これらが生み出された歴史的・文化的背景を考察する。	1. 染織・服飾の実作品に使用されている技法の時代的特徴や、技法の違いによる意匠表現の違いなどを理解する。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 日本の染織・服飾の具体的な様相を観察した結果を、論理的に言葉で表現できるようにする。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 染織文化に関する専門的な知識・技能を効果的に十分に活用できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 4. 授業で学んだことを整理して、幅広い見識に基づいたレポートを作成することができる。(DP2-2 課題発見・解決力一社会的役割一課題解決力)(DP3 リーダーシップ)	1. 実作品を前に、各時代の染織品の素材・技法・意匠に関する特徴について理解する。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. その特徴が、どのような理由によってその時代に現れたのかを理解する。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 染織文化に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 4. 授業で学んだことを整理して、レポートを作成することができる。(DP2-2 課題発見・解決力一社会的役割一課題解決力)(DP3 リーダーシップ)
染織文化史演習	家政学研究科 被服学専攻	2	2	日本人の衣生活のなかで様々な染織技法や繊維素材、色材などが用いられ、これらがさらに意匠と組み合わせられて一つの染織品が出来上がっている。これを理解するには実際の作品を見ることが必須となる。本科目では、日本の各時代の染織・服飾の実作品を目的にしながら、講義形式でその技法や意匠の内容を理解するとともに、これらが生み出された歴史的・文化的背景を考察する。グループディスカッションにより、染織文化に関連した学術的・文化的価値の創出についても検討する。	1. 染織・服飾の実作品に使用されている技法の時代的特徴や、技法の違いによる意匠表現の違いなどを理解する。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 日本の染織・服飾の具体的な様相を観察した結果を、論理的に言葉で表現できるようにする。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 専門的な知識・技能の異なる他者と協働し、染織文化史に関連した学術的・文化的価値の創出について建設的な議論ができる。(DP3 リーダーシップ) 4. 授業で学んだことを整理して、幅広い見識に基づいたレポートを作成することができる。(DP2-2 課題発見・解決力一社会的役割一課題解決力)(DP3 リーダーシップ)	1. 実作品を前に、各時代の染織品の素材・技法・意匠に関する特徴について理解する。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. その特徴が、どのような理由によってその時代に現れたのかを理解する。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 染織文化史に関連した学術的・文化的価値の創出について建設的な議論ができる。(DP3 リーダーシップ) 4. 授業で学んだことを整理して、レポートを作成することができる。(DP2-2 課題発見・解決力一社会的役割一課題解決力)(DP3 リーダーシップ)
被服心理学特論	家政学研究科 被服学専攻	1	2	被服行動とその背後にある心理について理解するための、理論的かつ実践的な学びを行う。まず、心理学の歴史と定義について理解する。次に、心理学の基本的知識について確認したうえで、心理学分野の研究(量的研究・質的研究)の方法について把握する。量的研究の方法について理解するために、マインドマップなどのワークを行う。また、体験的理解を深めるため、心理検査も行う。	1. 被服行動とその背後にある心理について積極的な関心に向け、意欲的かつ計画的に学ぶことができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 2. 心理学の歴史と定義について体系的に理解することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 3. 心理学の基本的知識について幅広く理解することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 4. 心理学分野の研究方法のうち、量的方法について総合的に把握することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 5. 心理学分野の研究方法のうち、質的方法について包括的に理解することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 6. 研究仮説を生成するために、マインドマップを的確かつ幅広く活用する技法を身につけることができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 7. 授業で学んだことを整理して、幅広い見識に基づいたレポートを作成することができる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割)	1. 被服行動とその背後にある心理について関心に向け、計画的に学ぶことができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 2. 心理学の基本的な歴史と定義について理解することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 3. 心理学の基本的知識について大まかに理解することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 4. 心理学分野の研究方法のうち、量的方法の基本について把握することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 5. 心理学分野の研究方法のうち、質的方法の基本について理解することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 6. 研究仮説を生成するための方法として、マインドマップを描くことができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 7. 授業で学んだことを整理して、レポートを作成することができる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割)
被服心理学演習	家政学研究科 被服学専攻	2	2	被服行動とその背後にある心理について理解するための、理論的かつ実践的な学びを行う。まず、心理学の歴史と定義について理解する。次に、心理学の基本的知識について確認したうえで、心理学分野の研究(量的研究・質的研究)の方法について把握する。量的研究の方法について理解するために、マインドマップなどのワークを行う。また、体験的理解を深めるため、心理検査も行う。グループディスカッションにより、心理学分野の研究成果による課題解決や社会的・経済的価値の創出についても検討する。	1. 被服行動とその背後にある心理について積極的な関心に向け、意欲的かつ計画的に学ぶことができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 2. 心理学の歴史と定義について体系的に理解することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 3. 心理学の基本的知識について適切に理解することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 4. 心理学分野の研究方法のうち、量的方法について総合的に把握することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 5. 心理学分野の研究方法のうち、質的方法について包括的に理解することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 6. 研究仮説を生成するために、KJ法を的確かつ幅広く活用する技法を身につけることができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 7. 授業で学んだことを整理して、幅広い見識に基づいたレポートを作成することができる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 8. 専門的な知識・技能の異なる他者と協働し、心理学分野の研究成果による課題解決や社会的・経済的価値の創出について建設的な議論ができる。(DP3 リーダーシップ)	1. 被服行動とその背後にある心理について関心に向け、計画的に学ぶことができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 2. 心理学の基本的な歴史と定義について理解することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 3. 心理学の基本的知識について大まかに理解することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 4. 心理学分野の研究方法のうち、量的方法の基本について把握することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 5. 心理学分野の研究方法のうち、質的方法の基本について理解することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 6. 研究仮説を生成するための方法として、マインドマップを描くことができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 7. 授業で学んだことを整理して、レポートを作成することができる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 8. 心理学分野の研究成果による課題解決や社会的・経済的価値の創出について議論ができる。(DP3 リーダーシップ)
被服コンピュータ応用特論	家政学研究科 被服学専攻	1	2	ファッションプロダクトの企画、設計から、製造、流通、販売、消費に至る様々な過程で情報技術が利用され、技術革新により従来のファッション産業が大きく変貌している。この科目では、社会情勢、および、技術動向を踏まえたうえで、ファッション産業における課題を抽出して検討する。さらに、生産者から消費者まで含めた今後のファッション産業の将来シナリオを検討する。	1. ファッションプロダクトのサプライチェーンにおける技術課題を理解して、正確に説明ができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 課題解決に向けた具体的な情報技術の応用方法を検討して、新しい提案ができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 社会的・経済的価値の創出に向けて、ファッションに関連した情報技術に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 4. 課題解決に向けて、ファッションに関連した情報技術に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力)	1. ファッションプロダクトのサプライチェーンにおける技術課題を理解して説明ができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 課題解決に向けた具体的な情報技術の応用方法を検討して、何らかの提案ができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 社会的・経済的価値の創出に向けて、ファッションに関連した情報技術に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割)
被服コンピュータ応用演習	家政学研究科 被服学専攻	2	2	ファッションプロダクトの企画、設計から、製造、流通、販売、消費に至る様々な過程で情報技術が利用され、技術革新により従来のファッション産業が大きく変貌している。この科目では、社会情勢、および、技術動向を踏まえたうえで、ファッション産業における課題を抽出して検討する。さらに、生産者から消費者まで含めた今後のファッション産業の将来シナリオを検討する。グループディスカッションにより、ファッションに関連した情報技術応用による課題解決や社会的・経済的価値の創出についても検討する。	1. ファッションプロダクトのサプライチェーンにおける技術課題を理解して、正確に説明ができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 課題解決に向けた具体的な情報技術の応用方法を検討して、新しい提案ができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 社会的・経済的価値の創出に向けて、ファッションに関連した情報技術に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 4. 課題解決に向けて、ファッションに関連した情報技術に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 5. 専門的な知識・技能の異なる他者と協働し、ファッションに関連した情報技術による課題解決や社会的・経済的価値の創出について建設的な議論ができる。(DP3 リーダーシップ)	1. ファッションプロダクトのサプライチェーンにおける技術課題を理解して説明ができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 課題解決に向けた具体的な情報技術の応用方法を検討して、何らかの提案ができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3. 社会的・経済的価値の創出に向けて、ファッションに関連した情報技術に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 4. 課題解決に向けて、ファッションに関連した情報技術に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 5. 他者と協働し、ファッションに関連した情報技術による課題解決や社会的・経済的価値の創出について議論ができる。(DP3 リーダーシップ)
被服学特別研究	家政学研究科 被服学専攻	1	10	被服に関する専門分野について深く理解した上で学術的な課題を自ら設定し、調査・実験等を含む研究に取り組むことにより、課題を解決するための高度な知識と技能を修得する。担当教員と協働して、新たな学術的・社会的な価値を創出することを目的とした研究に取り組み、修士論文中間発表をこなすことで、研究に対する多様な意見を反映して内容を充実させる。最終的な研究成果を修士論文にまとめて提出し、修士論文審査を受けた上で修士論文発表会において口頭発表、および、質疑応答を行う。被服学特別研究を履修することにより、幅広く深い学識を養い、研究能力または高度の専門的な職業を担うための能力を養う。	1. 専門領域における既往の研究を俯瞰した上で、新たな学術的・社会的な価値の創出が期待される研究課題を設定することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 研究課題について学術的な見地から知識・理解を深め、課題を解決することの学術的・社会的な意義を的確に説明でき、専門家と円滑なコミュニケーションがとれる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 3. 自ら設定した研究課題について研究方法を多面的に検討し、具体的な研究計画に基づいて研究を実行できる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 4. 独創性の認められる学術的な研究成果を、修士論文にまとめることができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 5. 被服学特別研究に取り組むことにより、専門的な知識に根差した「問題発見・解決」のための高度な能力を修得している。(DP3 リーダーシップ)	1. 専門領域における基本的な既往の研究を把握した上で、自ら研究課題を設定することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2. 研究課題について知識・理解を深め、課題を解決することの学術的・社会的な意義を説明できる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 3. 自ら設定した研究課題について具体的な研究方法を検討し、研究を実行することができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 4. 得られた学術的な研究成果を、修士論文にまとめることができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 5. 被服学特別研究に取り組むことにより、専門的な知識に根差した「問題発見・解決」のための基本的な能力を修得している。(DP3 リーダーシップ)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
栄養学特論	家政学研究科 食 物学専攻	1	2	私たちの身体は、エネルギーを産生しながら消費する精巧なロボットのようなものである。生きるためのエネルギー産生には、①栄養と②酸素の2つが最低限必要であり、どちらかが欠けると深刻な事態となる。このように「栄養」は、生きるために非常に重要なものである。また、近年増加の一途をたどる生活習慣病の発症に、栄養は深く関与している。本講義では、栄養学について実感を持って深い理解が得られることを目指し、アクティブラーニング形式で体験、参加する。また、最先端の話題についても理解する。各講義のあと、自分の考えをさらに深く調べたいと感じる事柄について有償発表を行い、議論を行いたいが多角的に考察する。栄養学に関するこれまでの授業内容の中から、テーマを決めて関連する論文を読み、レポートにまとめ、深い理解にもとづいたプレゼンテーションを行う。	1. 栄養学について総合的に理解し、説明することができる。(DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理、DP2-2 客観性・自律性-主体的判断力) 2. 栄養学関連の最先端の話題について関心を持ち、自分の考えについて説明することができる。(DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理、DP2-1 客観性・自律性-主体的判断力) 3. 栄養学関連の話題について、関心を持って深く議論することができる。(DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理、DP2-1 客観性・自律性-主体的判断力、DP2-2 客観性・自律性-主体的判断力) 4. 栄養学関連における興味のある話題について、国際論文を読み、レポートにまとめて詳しく説明し、自分の考えも含めて科学的根拠に基づき発表することができる。(DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2 課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力)	1. 栄養学について総合的に理解することができる。(DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理) 2. 栄養学関連の最先端の話題について、自分の考えを持つことができる。(DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理) 3. 栄養学関連の基礎的な話題について、議論に参加することができる。(DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力、DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力) 4. 栄養学関連における興味のある話題について、国際論文を読み、レポートにまとめて説明することができる。(DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力)
栄養学演習	家政学研究科 食 物学専攻	1	2	「酸素」は生体にとって不可欠な物質であるが、諸刃の剣とされている。酸素の存在するところ、一定の割合で活性酸素種が存在することが知られている。活性酸素種は、エネルギー代謝の過程、生体防御機構の中で常に細胞内外で発生しており、周辺たんぱく質と反応して細胞、組織に対して傷害を惹起する。その傷害性は、生活習慣病に関与していることが報告されている。本授業では、「活性酸素」「酸化ストレス」「生活習慣病」「血管障害」「糖尿病」「がん」などをキーワードとして、最新の国際誌を読み、理解を深めていく。さらに、栄養学的分野における基礎的な理解の問題点を明らかにし、ディスカッションを通じて、修士論文研究遂行のための考え方を修得する。	1. 授業概要に記した内容に則したディスカッションを通じて、関連分野について理解でき、詳しく説明できるようになる。(DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力、DP3リーダーシップ) 2. 最先端の話題についてのディスカッションを繰り返し、研究遂行のための能力や考え方をしっかりと修得する。(DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割、DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割、DP3リーダーシップ) 3. 修士論文の作成にあたり、現在自分が行っている研究および行う予定である研究について、科学的根拠に基づいて詳しく説明を行うことができる。(DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割、DP3リーダーシップ) 4. 自分の興味のある方向性について論理的かつ具体的にディスカッションを行うことができる。(DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割、DP3リーダーシップ) 5. その上で、栄養学的な理解における問題点を明らかにし、研究を遂行するための科学的な考え方をしっかりと修得し議論することができる。(DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力、DP3リーダーシップ)	1. 授業概要に記した内容に則したディスカッションを通じて、関連分野について理解できる。(DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力、DP3リーダーシップ) 2. 最先端の話題についてのディスカッションを繰り返し、研究遂行のための基本的な考え方を修得する。(DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割、DP3リーダーシップ) 3. 修士論文の作成にあたり、現在自分が行っている研究および行う予定である研究について、基本事項に関して説明を行うことができる。(DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割、DP3リーダーシップ) 4. 自分の興味のある方向性について説明を行うことができる。(DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割、DP3リーダーシップ) 5. その上で、栄養学的な理解における問題点を明らかにし、研究を遂行するための基本的な考え方を修得することができる。(DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力、DP3リーダーシップ)
臨床栄養学特論	家政学研究科 食 物学専攻	1	2	傷病者や要支援者に対する医療的ケアにおいて対象者の栄養状態を管理することは非常に重要である。また、栄養状態を管理すること、すなわち栄養管理を効果的に行う上では適切な栄養ケア・マネジメントが必須であり、さらに他職種協働による支援が欠かせない。本科目では、臨床栄養分野に関する最新の研究を国内外から検索し、傷病者や要支援者の栄養管理における現在の課題について理解を深める。	1. 臨床栄養学関連分野の研究論文から新しい知見を習得する。(DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理) 2. 臨床栄養学関連分野の科学的研究手法および統計学的手法により解析された結果を理解し、説明できる。(DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力) 3. 臨床栄養管理における現状の課題を幅広い文献から整理し、自分の考察を含めて説明できる。(DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力)	1. 臨床栄養学関連分野の研究論文から新しい知見を習得する。(DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理) 2. 臨床栄養学関連分野の科学的研究手法および統計学的手法により解析された結果を理解し、説明できる。(DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力) 3. 臨床栄養管理における課題を整理し、説明できる。(DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力)
公衆栄養学特論	家政学研究科 食 物学専攻	1	2	集団の健康・栄養状態の問題点を明らかにするためには、その評価方法を理解する必要がある。そこで、本科目では、公衆栄養学に関する英語の原書論文の講義を通じて、集団の健康・栄養状態の評価方法を学ぶ。	1. 食生活などの生活習慣とかわりのある生活習慣病について、評価方法の違いを含めて集団の疾病状況の違いを説明できる。(DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理) 2. 複数の大規模研究の論文講義を通じ、食品・栄養素摂取量の評価方法の違いを説明できる。(DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割) 3. 生活習慣病と集団の疾病状況と食品・栄養素摂取量の関連を説明できる。(DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力)	1. 食生活などの生活習慣とかわりのある生活習慣病について、集団の疾病状況の違いを説明できる。(DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理) 2. 複数の大規模研究の論文講義を通じ、食品・栄養素摂取量の評価方法の違いを説明できる。(DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割) 3. 生活習慣病と集団の疾病状況と食品・栄養素摂取量の関連を説明できる。(DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力)
栄養生理学特論	家政学研究科 食 物学専攻	1	2	栄養生理学とは、ヒトの健全な生理的機能の発揮に資する栄養学的要件を探索する分野である。しかし、人体生理学の深い理解と、栄養学の生化学的知識をもとに、現代人に即した新しい栄養のあり方を議論する。本講義では、栄養生理学に関する最先端の研究動向を国内のみならず世界の英語論文から紹介し、その実験的方法論や健康科学的な意義を考察し議論する。	1. 現代の健康科学上の問題点に重要な示唆を与える上質な英語論文を探索できるようにする。(DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理) 2. 英語論文を正確に読解し、基礎的および発展的な知識を吸収することができる。(DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力) 3. 論文について批判的に考察し、建設的な意見を形成することができる。(DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力)	1. 現代の健康科学上の問題点に言及する英語論文を探索できるようにする。(DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理) 2. 英語論文の概略を読解し、基礎的な知識を吸収することができる。(DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力) 3. 論文について考察し、感想を述べることができる。(DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力)
臨床栄養学演習	家政学研究科 食 物学専攻	1	2	傷病者や要支援者に対する医療的ケアにおいて対象者の栄養状態を管理することは非常に重要である。また、栄養状態を管理すること、すなわち栄養管理を効果的に行う上では適切な栄養ケア・マネジメントが必須であり、さらに他職種協働による支援が欠かせない。本科目では、学修者自ら関心を持つ臨床栄養分野に関する最新の研究を国内外から検索し、傷病者や要支援者の栄養管理における現在の課題について考察する。	1. 臨床栄養学関連分野の国内外の研究論文から新しい知見を習得する。(DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割) 2. 臨床栄養学関連分野の科学的研究手法および統計学的手法により解析された結果をその限界点も含めて理解し、説明できる。(DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力) 3. 臨床栄養管理における現状の課題を幅広い文献から整理し、自分の考察を含めて意見交換できる。(DP3リーダーシップ)	1. 臨床栄養学関連分野の国内外の研究論文から新しい知見を習得する。(DP1-1 客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割) 2. 臨床栄養学関連分野の科学的研究手法および統計学的手法により解析された結果をその限界点も含めて理解できる。(DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力) 3. 臨床栄養管理における課題について、幅広い文献から自分なりの考察をプレゼンテーションできる。(DP3リーダーシップ)
公衆栄養学演習	家政学研究科 食 物学専攻	1	2	修士論文の研究仮説を明らかにするためには、自身の研究領域における先行研究を把握する必要がある。そこで、本科目では、自身の研究領域における論文検索、系統的な論文レビューを行い、修士論文の研究仮説の設定につなげる。さらに、研究実施の方法論として疫学、統計学の基礎を学ぶ。	1. 自身の研究領域における論文を検索し系統的な論文レビューを行い、先行研究で明らかにされている事柄を、整理して説明できる。(DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力) 2. 先行研究の研究デザインの違いを判別し、科学的エビデンスのレベルの違いを説明できる。(DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力) 3. 集団の健康状態を評価するために、最も適切な統計解析方法を説明できる。(DP3リーダーシップ)	1. 自身の研究領域における論文を検索し系統的な論文レビューを行い、先行研究で明らかにされている事柄を説明できる。(DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力) 2. 先行研究の研究デザインの違いを判別して、説明できる。(DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力) 3. 集団の健康状態を評価するための統計解析方法を説明できる。(DP3リーダーシップ)
栄養生理学演習	家政学研究科 食 物学専攻	1	2	栄養生理学とは、ヒトの健全な生理的機能の発揮に資する栄養学的要件を探索する分野である。しかし、人体生理学の深い理解と、栄養学の生化学的知識をもとに、現代人に即した新しい栄養のあり方を議論する。本演習では、学生みずから栄養生理学に関する最先端の研究動向を国内のみならず世界の英語論文から探検し、その実験的方法論や健康科学的な意義を考察し議論する。	1. 現代の健康科学上の問題点に重要な示唆を与える上質な英語論文を探索できるようにする。(DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力) 2. 英語論文を正確に読解し、基礎的および発展的な知識を吸収することができる。(DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力) 3. 論文について批判的に考察し、建設的な意見を形成することができる。(DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力) 4. 論文のテーマに基づいて、教員や学生と発展的な議論ができる。(DP3リーダーシップ)	1. 現代の健康科学上の問題点に言及する英語論文を探索できるようにする。(DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力) 2. 英語論文の概略を読解し、基礎的な知識を吸収することができる。(DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割) 3. 論文について考察し、感想を述べることができる。(DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力) 4. 論文のテーマに基づいて、教員や学生と基本的な議論ができる。(DP3リーダーシップ)
栄養教育学特論	家政学研究科 食 物学専攻	1	2	栄養教育をより効果的に実践していくためには、栄養教育の目的、内容、学習者(対象者)の実態に応じて、教育の形態、教材・媒体、場所、展開の仕方などの選択が重要になる。文献・資料を通して、栄養教育の効果的な方法を理解する。	1. 栄養教育の目的、内容、学習者(対象者)の実態を把握できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 2. 栄養教育の形態、教材・媒体、場所、展開の仕方を対象者に応じて選択できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 3. 栄養教育の効果的な方法を理解して、説明できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力)	1. 栄養教育の目的、内容を理解できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 2. 栄養教育の形態、教材・媒体、場所、展開の仕方を理解できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 3. 栄養教育の効果的な方法を理解できる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力、DP3リーダーシップ)
給食経営管理特論	家政学研究科 食 物学専攻	1	2	栄養教育とは対象者の栄養改善を図ることにあり、その中で給食は広範の教材・媒体として位置づけられている。本講義ではその給食を提供するにあたってのシステムについて文献・資料を通して給食経営管理の面から考察する。	1. 給食システムに関連する研究例を理論的に説明できる。(DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理) 2. 給食経営管理領域の研究例を体系的かつ理論的に説明できる。(DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理) 3. 給食経営管理領域の研究テーマを自ら決定し、資料調査・考察・発表ができる。(DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力)	1. 給食システムに関連する研究例を簡単に説明できる。(DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理) 2. 給食経営管理領域の研究例を簡単に説明できる。(DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理) 3. 与えられた給食経営管理領域の研究テーマについて、資料調査・考察・発表ができる。(DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	到達目標 (成績評価C)
栄養教育演習	家政学研究科 食物学専攻	1	2	栄養教育をより効果的に実践していくためには、栄養教育の目的、内容、学習者(対象者)の実態に応じて、教育の形態、教材・媒体、場所、展開の仕方などの選択が重要になる。「栄養教育論特論1」より高度な文献を用い、栄養教育の方法論を理解する。	1.栄養教育の目的、内容、学習者(対象者)の実態を把握できる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 2.栄養教育の形態、教材・媒体、場所、展開の仕方を対象者に応じて選択できる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 3.栄養教育の効果的な方法を理解して、説明できる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力、DP3リーダーシップ)	1.栄養教育の目的、内容を理解できる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 2.栄養教育の形態、教材・媒体、場所、展開の仕方を理解できる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 3.栄養教育の効果的な方法を理解できる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力、DP3リーダーシップ)
給食経営管理演習	家政学研究科 食物学専攻	1	2	栄養教育とは対象者の栄養改善を図ることにあり、その中で給食は広義の教材・媒体として位置づけられている。給食経営管理領域の研究を行うためには、給食経営管理領域の知識を有するとともに、研究能力、論文の執筆に関する知識、プレゼンテーション能力が必要になる。そこで本科目では、修士論文の研究課題に関連する研究論文、書籍、資料などから実験計画、実験方法等、様々な研究手法の論文を検索し、講読することにより、修士論文の研究手法を組み立てることができるようになる。さらには、研究内容を発表する上でプレゼンテーションの技法を修得する。	1.研究課題の詳細な研究計画を適切に決定することができる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 2.研究課題に関連する論文を多数読誦し、自分の研究課題との関連を含め、体系的に説明できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 3.効果的なプレゼンテーションの技術を身につけることができる。(DP3リーダーシップ)	1.研究課題の基本的な研究計画を決定することができる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 2.研究課題に関連する論文を多数読誦し、自分の研究課題との関連を説明できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 3.プレゼンテーションの基礎的な技術を身につけることができる。(DP3リーダーシップ)
食品学特論	家政学研究科 食物学専攻	1	2	食品に含まれる糖質、タンパク質、脂質は、ヒトの活動のエネルギーになるとともに、生体内で重要な働きをしている。これら成分の代謝については、学部で学んでいるはずであるが、十分に理解していない院生が多数いる。本講義では、これらの成分の代謝について詳説する。	1.糖質の代謝について理解している。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 2.糖質の代謝について、学部学生に説明できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 3.タンパク質の代謝について理解している。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 4.タンパク質の代謝について、学部学生に説明できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 5.脂質の代謝について理解している。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 6.脂質の代謝について、学部学生に説明できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力)	1.糖質の代謝について、学部学生レベルの知識を持っている。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 2.糖質の代謝について、説明できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 3.タンパク質の代謝について、学部学生レベルの知識を持っている。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 4.タンパク質の代謝について、説明できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 5.脂質の代謝について、学部学生レベルの知識を持っている。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 6.脂質の代謝について、説明できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力)
食品衛生学特論	家政学研究科 食物学専攻	1	2	微生物を利用した食品の加工は、産業として大規模化するとともに、菌株の育種、品質管理、微生物検査等にも高度の技術を要するようになっている。本講義では微生物を用いた食品加工に関連する最新の進歩や問題点について国内外の文献を精読して理解する。また食品衛生検査についても検査方法の原理と実態について学ぶ。	1.微生物の菌株の維持について、方法を具体的に説明できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 2.微生物を用いた発酵食品について、食品ごとに説明できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 3.食品衛生検査について、各方法を具体的に説明することができる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 4.文献を読んで理解し、適切に説明できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力)	1.微生物の菌株の維持について概要を説明できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 2.微生物を用いた発酵食品について概要を説明できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 3.食品衛生検査について概要を説明することができる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 4.文献を読んで理解できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力)
食品物理化学特論	家政学研究科 食物学専攻	1	2	水は、多くの食品に含まれ、食品の物性・機能に大きな影響を及ぼす。それは、水が食品中の他成分と様々な相互作用をする結果と考えられる。本科目で得られる、食品中の水に関する物理化学的取り扱い法に関する知識は、食品加工等々の学習に活用できる。	1.物質の相転移の概念について、例を述べたうえで説明できる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 2.食品の成分間相互作用に基づく物理変化について、例を述べたうえで説明できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 3.食品の水分収着挙動とガラス転移の概念について、例を述べたうえで説明できる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、)	1.物質の相転移の概念について、本を見ながら説明できる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 2.本を見ながら、食品の成分間相互作用に基づく物理変化について説明できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 3.本を見ながら、食品の水分収着挙動とガラス転移の概念について、説明できる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1課題発見・解決力-社会的役割)
食品機能学特論	家政学研究科 食物学専攻	1	2	近年、アレルギーや自己免疫疾患などの疾病が増加している。こうした疾病は、生活環境や生活習慣に起因することが多いとされているが、中でも食生活が体の免疫機能に及ぼす影響は無視できない。そこで、食品に含まれる栄養成分、添加物および加工助剤などが、ヒト消化管の免疫機能に及ぼす影響について体系的に理解する。また、食品を様々な技術で加工処理することによって、新たに生成するアレルギー物質などについても、国内外の知見を包括的に学ぶ。	1.ヒトの免疫機能における消化管免疫システムの役割について、脾臓やリンパ節などの免疫組織全体を含めて、総合的内容を分子レベルで説明できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 2.食品成分が消化管免疫システムに及ぼす影響について、総合的内容を分子レベルで説明できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力)	1.ヒトの免疫機能における消化管免疫システムの役割について、基礎的内容を説明できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 2.食品成分が消化管免疫システムに及ぼす影響について、基礎的内容を説明できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力)
食品学演習	家政学研究科 食物学専攻	1	2	糖質、タンパク質、脂質の代謝に関連する英語論文を読み、その内容について発表を行い、相互に討論する。	1.糖質の代謝に関する英語論文の内容を発表し、質問に対して適確に答えられる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 2.タンパク質の代謝に関する英語論文の内容を発表し、質問に対して適確に答えられる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 3.脂質の代謝に関する英語論文の内容を発表し、質問に対して適確に答えられる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 4. 1、2、3を踏まえて、主体性を持って総合的に討論できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP3リーダーシップ)	1.糖質の代謝に関する英語論文の内容を発表できる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 2.タンパク質の代謝に関する英語論文の内容を発表できる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 3.脂質の代謝に関する英語論文の内容を発表できる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 4. 1、2、3を踏まえて、総合的な討論に参加できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP3リーダーシップ)
食品衛生学演習	家政学研究科 食物学専攻	1	2	微生物を用いた食品加工および物質生産は、バイオテクノロジーの発展と共に進歩が著しい。本演習では最新の知見を文献を通して知り、その内容を発表して討論することで理解を深める。	1.微生物の代謝や機能について具体的に説明でき、質問に的確に答えられることができる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 2.微生物を用いた物質生産に関する英語論文を精読し理解できる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1課題発見・解決力-社会的役割) 3.微生物を用いた物質生産についてスライドを作成して発表し、討論することができる。(DP2-2課題発見・解決力-課題解決力、DP3リーダーシップ)	1.微生物の代謝や機能について具体的に説明できる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 2.微生物を用いた物質生産に関する英語論文を理解できる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1課題発見・解決力-社会的役割) 3.微生物を用いた物質生産についてスライドを作成して発表し、討論することができる。(DP2-2課題発見・解決力-課題解決力、DP3リーダーシップ)
食品物理化学演習	家政学研究科 食物学専攻	1	2	食品科学といえば、生化学・栄養学や分析化学を考えたが、物理化学もしくは工学的アプローチが重要な場面は多い。本講義では、物理や工学になじみのない学生を対象に、食品分野における物理化学や工学の重要性を説明し、その考え方が理解できるようにする。	1.物理化学や工学と食品製造との関係を理解し、説明できる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1課題発見・解決力-社会的役割) 2.物理化学や工学の基本的な計算ができる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 3.物理化学と化学工学の差異に関して理解できる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力)	1.物理化学や工学と食品製造との関係を本を見ながら説明できる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1課題発見・解決力-社会的役割) 2.本を見ながら、物理化学や工学の基本的な計算ができる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 3.本を見ながら、物理化学と化学工学の差異に関して説明できる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力)
食品機能学演習	家政学研究科 食物学専攻	1	2	厚生省「健康日本21(第2次改訂)」の基本方針には、「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」、「生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底」および「社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上」が掲げられている。日常的な食生活が健康に及ぼす影響については、骨粗鬆症、サルコペニア、糖尿病、循環器系疾患、癌などの予防の観点から、これまで多くの研究がなされてきた。そこで、食物がこうした疾患の予防にどのように関与しているのかについて、国内外の知見を包括的に理解する。	1.メタボリックシンドローム予防における食品成分の機能について、国内外の知見をまとめた総合的内容を分子レベルで説明できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 2.ロコモティブシンドローム予防における食品成分の機能について、国内外の知見をまとめた総合的内容を分子レベルで説明できる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力、DP3リーダーシップ)	1.メタボリックシンドローム予防における食品成分の機能について、国内外の知見をまとめた総合的内容を説明できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 2.ロコモティブシンドローム予防における食品成分の機能について、国内外の知見をまとめた総合的内容を説明できる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力、DP3リーダーシップ)
調理学特論	家政学研究科 食物学専攻	1	2	糖質及び糖質含有食品を対象とし、調理過程に起こる問題解決のための研究方法や新素材を用いた調理・加工適性の解明法を学び、自らが必要とする調理学的研究を企画・実施する力を養うための科目である。これまでの調理学関連の研究例から、調理学関連の研究の組み立て方、研究方法の選択、および結果から得られる考察および発表の仕方を学び、身につけることができる。研究方法の選択には、調理学研究に必要な物理化学および組織学的な実験手法、官能評価の方法を理解することが必要であるため、この科目を学ぶことでそれらの基礎的および先進的な研究方法を理解できるようになる。また、目的に応じた調理学的研究の立案、実施、考察および発表する能力を身につけ、今後の研究生活に生かすことができるようになる。	1.糖質および糖質含有食品を用いた調理学関連の研究例を理論的に説明することができる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理) 2.調理学研究に必要な物理化学および組織学的な実験手法、官能評価の基礎的な方法を説明することができる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理) 3.目的に応じた調理学的研究を立案・実施内容を発表し、質問に対して理論的に答えることができる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力)	1.原料食品を用いた調理学関連の研究例を簡単に説明することができる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理) 2.調理学研究に必要な物理化学および組織学的な実験手法、官能評価の基礎的な方法を説明することができる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理) 3.目的に応じた調理学的研究を立案・実施内容を発表し、質問に対して簡単に答えることができる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力、DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
調理学演習	家政学研究科 食 学専攻	1	2	調理学領域の研究を行うためには、調理学関連の知識を有するとともに研究能力、論文執筆に関する知識、プレゼンテーション能力が必要になる。そこで修士論文の課題に関する書籍、研究論文、資料等から化学的、物理的、組織的実験方法、官能評価を用いた研究方法、調査研究方法等、様々な研究方法の論文を検索、読解し、修士論文の実験計画に適した研究方法を組み立てる。また、論文執筆に関する知識を深め、プレゼンテーションの技術を習得する。本科目は修士論文の執筆・発表をするために必要な学修内容であり、研究分野で活躍するために必要最低限身につけなければならない内容である。	1. 研究課題の詳細な研究計画を適切に決定することができる。(DP1-2 客観性・自律性・主体的判断力) 2. 研究課題に関連する論文を多数読解し、自分の研究課題との関連を含め、体系的に説明できる。(DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力) 3. 効果的なプレゼンテーション、質疑応答の仕方を身につけ、実施することができる。(DP3 リーダーシップ)	1. 研究課題の基本的な研究計画を決定することができる。(DP1-2 客観性・自律性・主体的判断力) 2. 研究課題に関連する論文を多数読解し、自分の研究課題との関連を説明できる。(DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力) 3. プレゼンテーション、質疑応答の仕方を身につけ、実施することができる。(DP3 リーダーシップ)
食物学特別研究	家政学研究科 食 学専攻	1	10	修士論文の作成へ向けて、各自研究テーマを設定し、研究計画を立てて研究を遂行する。研究過程において、問題解決のための課題設定および解決方法を自ら考案し、主体的に研究を進められるようになる。また論文作成に必要な知識および情報を取得する技術を深め、教員の指導のもとに論文を作成し、プレゼンテーションする技術を修得する。	1. 研究テーマを全体および一部を独自で設定できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理) 2. 研究計画を独自で立てることができる。(DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力) 3. 主体的に研究を遂行することができる。(DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力) 4. 研究中に発生した問題点について、解決方法を自ら考案できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 5. 研究結果をまとめ、科学的に多面的に考察することができる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 6. 修士論文を指導に頼らず主体的にまとめることができる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 7. 研究成果を発表し、積極的に討論できる。(DP3リーダーシップ)	1. 研究テーマを一部を独自で設定できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理) 2. 研究計画を指導のもとに立てることができる。(DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力) 3. 指導のもとに研究を遂行することができる。(DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力) 4. 研究中に発生した問題点について、解決方法を指導のもとに考案できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 5. 研究結果をまとめ、考察することができる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 6. 修士論文を指導のもとにまとめることができる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 7. 研究成果を発表し討論できる。(DP3リーダーシップ)
特論 建築形態論	家政学研究科 建 築・デザイン専攻	1	2	建築空間は有形の「もの」を要素として人の生活、活動環境に合わせて、それらを一定の原則に従って構成することにより成り立ち「かたち」を形成している。本講義では「もの」「かたち」の視覚的特性を検討し、それらの組み合わせ方を豊富な建築空間の実例を通して考察する。	・建築を構成する幾何学的形態の視覚的特性を身につけることができる。(客観性・自律性-学識と倫理) ・建築空間を構成する基本形態(構造、素材、環境)を説明できる(客観性・自律性-学識と倫理) ・幾何学立体の組合せパターンを説明できる(客観性・自律性-学識と倫理) ・建築空間を創る際の形態操作ができる(客観性・自律性-学識と倫理) ・これらの知識、スキルを生かし実際の設計ができる(客観性・自律性-主体的判断力)(課題発見・解決力-社会的役割)(課題発見・解決力-課題解決力)	・建築を構成する幾何学的形態の視覚的特性をある程度身につけることができる。(客観性・自律性-学識と倫理) ・建築空間を構成する基本形態(構造、素材、環境)をある程度説明できる(客観性・自律性-学識と倫理) ・幾何学立体の組合せパターンをある程度説明できる(客観性・自律性-学識と倫理) ・建築空間を創る際の形態操作がある程度できる(客観性・自律性-学識と倫理) ・これらの知識、スキルを生かし実際の設計がある程度できる(客観性・自律性-主体的判断力)(課題発見・解決力-社会的役割)(課題発見・解決力-課題解決力)
特論 建築空間計画	家政学研究科 建 築・デザイン専攻	1	2	建築計画の基礎知識を前提とした上で、建築空間・都市空間のプログラム・プランニングといった計画プロセス、及びその計画手法と空間デザイン、地域における空間や人の運営手法などについて国内外の事例を用い、比較することによって、現代におけるそれらの手法のあり方を考察する。また、現代社会における地域活動やまちづくりの実践が、どのような空間や形態で展開されているのか、様々な事例や課題を通して空間計画手法を修得する。	・日本における建築計画の変遷を理解することにより、建築と人々の生活、それを取り巻く社会状況の変化との関係を説明できる(客観性・自律性-学識と倫理)(課題発見・解決力-社会的役割) ・建築空間や都市空間のプログラム、プランニングといった計画プロセスやその基礎的手法を使うことが出来る(課題発見・解決力-課題解決力) ・インターンシップ受講前に、建築設計者としての責任の重要性など実務を行う上で必要な知識を応用し示すことができる(客観性・自律性-主体的判断力)(課題発見・解決力-社会的役割)	・建築と人々の生活、それを取り巻く社会状況の変化との関係を説明できる(客観性・自律性-学識と倫理)(課題発見・解決力-社会的役割) ・建築空間や都市空間の基礎的手法を使うことが出来る(課題発見・解決力-課題解決力) ・インターンシップ受講前に、建築設計者としての責任の重要性など実務を行う上で必要な知識を示すことができる(客観性・自律性-主体的判断力)(課題発見・解決力-社会的役割)
特論 構造デザイン	家政学研究科 建 築・デザイン専攻	1	2	構造デザインに必要な構造の基礎知識を認識しつつ、目的に合致した形を作り出すことを身につける。また、構造デザインに役立つ建築・構造以外の分野の知見も身につける。	・設計する建築の用途、目的に最適な構造のデザインを行うための専門知識を具体的に説明できる(客観性・自律性-学識と倫理) ・設計する建築の用途、目的に最適な構造形態を提案するための与条件の整理ができる(課題発見・解決力-課題解決力) ・設計する建築の用途、目的に最適な構造計画が的確にできる(客観性・自律性-主体的判断力)(課題発見・解決力-社会的役割)	・設計する建築の用途、目的に最適な構造のデザインを行うための専門知識を説明できる(客観性・自律性-学識と倫理) ・設計する建築の用途、目的に最適な構造形態を提案するための与条件の整理ができる(課題発見・解決力-課題解決力) ・設計する建築の用途、目的に最適な構造計画ができる(客観性・自律性-主体的判断力)(課題発見・解決力-社会的役割)
特論 環境デザイン	家政学研究科 建 築・デザイン専攻	1	2	建築計画的アプローチと環境工学的アプローチの統合を目指して、それぞれの方法論、設計プロセス、事例について議論し考察する。サステナビリティ(持続可能)な社会において、より必要となることは何かを考察する。	・快適な住生活を営むために必要な室内環境の在り方と住宅設備に関する知識を関係づけることができるようになる(客観性・自律性-学識と倫理) ・環境・設備システムに関する最新技術と情報を身につけることができる(客観性・自律性-学識と倫理) ・中高専修免許(家庭)に関連して、住生活の構成と計画について具体的に述べることができる(客観性・自律性-学識と倫理) ・実際の計画、設計に生かせる環境共生システムの技術と考え方を身につけて応用できる(客観性・自律性-主体的判断力)(客観性・自律性-社会的役割)(課題発見・解決力-課題解決力) ・インターンシップを行う上で建築設計者として必要な建築設計における考え方や必要な知識を身に付け示すことができる(客観性・自律性-主体的判断力)(課題発見・解決力-社会的役割)	・快適な住生活を営むために必要な室内環境の在り方と住宅設備に関する知識を関係づけることができるようになる(客観性・自律性-学識と倫理) ・環境・設備システムに関する最新技術と情報を身につけることができる(客観性・自律性-学識と倫理) ・中高専修免許(家庭)に関連して、住生活の構成と計画について具体的に述べることができる(客観性・自律性-学識と倫理) ・実際の計画、設計に生かせる環境共生システムの技術と考え方を身につけて応用できる(客観性・自律性-主体的判断力)(客観性・自律性-社会的役割)(課題発見・解決力-課題解決力) ・インターンシップを行う上で建築設計者として必要な建築設計における考え方や必要な知識を身に付け示すことができる(客観性・自律性-主体的判断力)(課題発見・解決力-社会的役割)
特論 都市景観デザイン	家政学研究科 建 築・デザイン専攻	1	2	文献研究やフィールドワークなどを通じて、都市景観について理解する。おもに実践的なフィールドワークを通じて、その問題を分析し、都市景観にかかわる基本的な項目を理解する。町並み、道路景観、建物や土木建造物、乗り物、水辺、緑地、照明計画そして電柱や広告などの景観阻害要因についても考察する。条例や協定などの景観にかかわる規則や海外事情についても考察する。	・都市を形成する各要素について、具体的な例をあげて、それをどう変えてゆくか、どう維持するかなどを議論し評価できるようになる(客観性・自律性-学識と倫理)(課題発見・解決力-課題解決力) ・「中高専修免許(家庭)」に関連して、生活環境と福祉/住生活関連法規について具体的に述べることができる(客観性・自律性-学識と倫理) ・他方で先進事例をながめてその制度的な背景を考察し評価し、具体的に述べることができるようになる(客観性・自律性-主体的判断力)(課題発見・解決力-社会的役割)(課題発見・解決力-課題解決力)	・都市を形成する各要素について、それをどう変えてゆくか、どう維持するかなどを議論し評価できるようになる(客観性・自律性-学識と倫理)(課題発見・解決力-課題解決力) ・他方で先進事例をながめてその制度的な背景を考察し評価し、述べることができるようになる(客観性・自律性-主体的判断力)(課題発見・解決力-社会的役割)(課題発見・解決力-課題解決力)
特論 住生活デザイン	家政学研究科 建 築・デザイン専攻	1	2	地球上のあらゆる場所で宮々とし繰り返されてきた人の営み。それらは、それぞれの地域の気候風土と社会背景の中で培われ育まれ、「すまいのかたち」と「すまいのかたち」の有機的関係を変遷しつつも、それぞれの時代において成り立ってきた。時代の変遷期である今日、「ひと」、「もの」、「空間」の関係を再構築するために、文献研究・フィールドワークなどを通じてその方を考察し、住空間の計画とインテリアデザインに関する知識と技術を身につける。	・「中高専修免許(家庭)」に関連して、住生活と文化について説明することができる(客観性・自律性-学識と倫理) ・本来の「ひと」、「もの」、「空間」の有機的関係を理解している。「ひと」、「もの」、「空間」に関する文献研究・デザインサーベイ手法を実施できる(課題発見・解決力-課題解決力)(課題発見・解決力-社会的役割) ・過去、現在における「もの」、「空間」の実践的分析能力で考察し応用できる(客観性・自律性-主体的判断力) ・纏め上げた結果を表現することが出来るようになる(客観性・自律性-主体的判断力)(課題発見・解決力-社会的役割)(課題発見・解決力-課題解決力)	・「中高専修免許(家庭)」に関連して、住生活と文化について説明することができる(客観性・自律性-学識と倫理) ・「ひと」、「もの」、「空間」の有機的関係を修得している。「ひと」、「もの」、「空間」に関する文献研究・デザインサーベイ手法を実施できる(課題発見・解決力-課題解決力)(課題発見・解決力-社会的役割) ・纏め上げた結果を表現することが出来るようになる(客観性・自律性-主体的判断力)(課題発見・解決力-社会的役割)(課題発見・解決力-課題解決力)
特論 住生活史	家政学研究科 建 築・デザイン専攻	1	2	日本の都市・建築は、近代化と引き換えに、これまでその地域に根ざし創られてきた歴史的・文化的環境をスクラップアンドビルドという再生手法で取り壊す場合が多かった。住みやすさは、施設が新しくれば良いというわけではなく、新しいものと古い歴史的・文化的なものとの組み合わせが合うことで、サステナビリティな社会を創る上で重要なことである。本講義では、歴史的な住生活と住文化を育みながら現在も生き続けている事例を対象にして、そこにどのようなデザインが展開されているかを考察する。	・歴史の中で、住生活における「ひと」と「もの」と「空間」の有機的関係について説明できる(客観性・自律性-学識と倫理) ・「ときのめぐり」と「ときのながれ」のなかで、「うつろうもの」と「とまわりのもの」を洞察し、それらの関係を説明できる(客観性・自律性-学識と倫理) ・「中高専修免許(家庭)」に関連して、住生活と文化について説明できる(客観性・自律性-学識と倫理) ・それらの関係を考察し問題点を指摘することができるようになる(客観性・自律性-主体的判断力)(課題発見・解決力-社会的役割)(課題発見・解決力-課題解決力)	・歴史の中で、住生活における「ひと」と「もの」と「空間」の有機的関係について説明できる(客観性・自律性-学識と倫理) ・「ときのめぐり」と「ときのながれ」のなかで、「うつろうもの」と「とまわりのもの」を洞察し、それらの関係を説明できる(客観性・自律性-学識と倫理) ・「中高専修免許(家庭)」に関連して、住生活と文化について説明できる(客観性・自律性-学識と倫理) ・それらの関係を考察し問題点を指摘することができるようになる(客観性・自律性-主体的判断力)(課題発見・解決力-社会的役割)(課題発見・解決力-課題解決力)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	到達目標（成績評価C）
建築設計Ⅰ	家政学研究科 建築・デザイン専攻	1	4	担当教員が設けるスタジオに学生が参加し実務にそった設計の流れにより設計を行いプレゼンテーションを行う。	・建築設計・インテリア設計の実務家である教員の指導のもと、現実の設計行為を念頭に置いた各種プロジェクトを通して、設計行為に必要なデータを比較分類することができるようになる（客観性・自律性一学識と倫理） ・それらを通じて、設計行為に必要なプレゼンテーションができるようになる（客観性・自律性一主体的判断力）（課題発見・解決力一課題解決力） ・それらを通じて、空間を設計できるようになる（客観性・自律性一主体的判断力）（課題発見・解決力一社会的役割） ・それらを通じて、設計行為に必要な構造、設備、環境など設計に関わるすべての物事に關心を持ち、他の設計者と協働してプロジェクトを進め完成できる。（リダーシップ）	・建築設計・インテリア設計の実務家である教員の指導のもと、現実の設計行為を念頭に置いた各種プロジェクトを通して、設計行為に必要なデータを比較分類することができるようになる（客観性・自律性一学識と倫理） ・それらを通じて、設計行為に必要なプレゼンテーションができるようになる（客観性・自律性一主体的判断力）（課題発見・解決力一課題解決力） ・それらを通じて、空間を設計できるようになる（客観性・自律性一主体的判断力）（課題発見・解決力一社会的役割） ・それらを通じて、設計行為に必要な構造、設備、環境など設計に関わるすべての物事に關心を持ち、プロジェクトを進め完成できる。（リダーシップ）
建築設計Ⅱ	家政学研究科 建築・デザイン専攻	1	4	担当教員が設けるスタジオに学生が参加し実務にそった設計の流れにより設計を行いプレゼンテーションを行う。	・建築設計・インテリア設計の実務家である教員の指導のもと、現実の設計行為を念頭に置いた各種プロジェクトを通して、設計行為に必要なデータを比較分類することができるようになる（客観性・自律性一学識と倫理） ・それらを通じて、設計行為に必要なプレゼンテーションができるようになる（客観性・自律性一主体的判断力）（課題発見・解決力一課題解決力） ・それらを通じて、空間を設計できるようになる（客観性・自律性一主体的判断力）（課題発見・解決力一社会的役割） ・それらを通じて、設計行為に必要な構造、設備、環境など設計に関わるすべての物事に關心を持ち、他の設計者と協働してプロジェクトを進め完成できる。（リダーシップ）	・建築設計・インテリア設計の実務家である教員の指導のもと、現実の設計行為を念頭に置いた各種プロジェクトを通して、設計行為に必要なデータを比較分類することができるようになる（客観性・自律性一学識と倫理） ・それらを通じて、設計行為に必要なプレゼンテーションができるようになる（客観性・自律性一主体的判断力）（課題発見・解決力一課題解決力） ・それらを通じて、空間を設計できるようになる（客観性・自律性一主体的判断力）（課題発見・解決力一社会的役割） ・それらを通じて、設計行為に必要な構造、設備、環境など設計に関わるすべての物事に關心を持ち、プロジェクトを進め完成できる。（リダーシップ）
インターンシップA	家政学研究科 建築・デザイン専攻	1	4	学外の一級建築士事務所において、一級建築士の指導により、実社会における設計・監理の実務を実施する。事前に学内オリエンテーション、事後に学内成果発表会を実施する。インターンシップの期間は1年次夏期休業中、1年次後期の任意の期間、1年次から2年次の間の春期休業中、2年次夏期休業中の4タームとする。（実習先の事務所の種別、指導者の資格等）建築設計の実務実績のあるチームの1級建築士で、本大学院がインターンシップの指導者として認めた設計者であり、一級建築士事務所とする。また、その実習を効果的なものとするために、事前指導、事後指導を実施する。	・大学院修了後、実社会の中で即活躍できるようにするために、建築設計の実務能力として必要な業務知識を具体的に述べる事ができる（客観性・自律性一学識と倫理） ・一級建築士の指導のもとで指導を受け、企画書・計画書・設計図書・工事監理書の作成等ができるようになる（課題発見・解決力一課題解決力） ・建築設計の補助業務を行うことを通じて、建築設計・工事監理の実務（建築工事の指導監督、建築確認に関するものを含む。）を体験することで実社会で業務を遂行することができる（客観性・自律性一主体的判断力）（課題発見・解決力一社会的役割）（リダーシップ）	・大学院修了後、実社会の中で即活躍できるようにするために、建築設計の実務能力として必要な業務知識を具体的に述べる事ができる（客観性・自律性一学識と倫理） ・一級建築士の指導のもとで指導を受け、関係書類などを作成できるように（課題発見・解決力一課題解決力） ・建築設計の補助業務を行うことを通じて、建築設計・工事監理の実務（建築工事の指導監督、建築確認に関するものを含む。）を体験することで実社会になじむことができる（客観性・自律性一主体的判断力）（課題発見・解決力一社会的役割）（リダーシップ）
インターンシップB	家政学研究科 建築・デザイン専攻	1	3	学外の一級建築士事務所において、一級建築士の指導により、実社会における設計・監理の実務を実施する。事前に学内オリエンテーション、事後に学内成果発表会を実施する。インターンシップの期間は1年次夏期休業中、1年次後期の任意の期間、1年次から2年次の間の春期休業中、2年次夏期休業中の4タームとする。（実習先の事務所の種別、指導者の資格等）建築設計の実務実績のあるチームの1級建築士で、本大学院がインターンシップの指導者として認めた設計者であり、一級建築士事務所とする。また、その実習を効果的なものとするために、事前指導、事後指導を実施する。	・大学院修了後、実社会の中で即活躍できるようにするために、建築設計の実務能力として必要な業務知識を具体的に述べる事ができる（客観性・自律性一学識と倫理） ・一級建築士の指導のもとで指導を受け、企画書・計画書・設計図書・工事監理書の作成等ができるようになる（課題発見・解決力一課題解決力） ・建築設計の補助業務を行うことを通じて、建築設計・工事監理の実務（建築工事の指導監督、建築確認に関するものを含む。）を体験することで実社会で業務を遂行することができる（客観性・自律性一主体的判断力）（課題発見・解決力一社会的役割）（リダーシップ）	・大学院修了後、実社会の中で即活躍できるようにするために、建築設計の実務能力として必要な業務知識を具体的に述べる事ができる（客観性・自律性一学識と倫理） ・一級建築士の指導のもとで指導を受け、関係書類などを作成できるように（課題発見・解決力一課題解決力） ・建築設計の補助業務を行うことを通じて、建築設計・工事監理の実務（建築工事の指導監督、建築確認に関するものを含む。）を体験することで実社会になじむことができる（客観性・自律性一主体的判断力）（課題発見・解決力一社会的役割）（リダーシップ）
インターンシップC	家政学研究科 建築・デザイン専攻	1	3	学外の一級建築士事務所において、一級建築士の指導により、実社会における設計・監理の実務を実施する。事前に学内オリエンテーション、事後に学内成果発表会を実施する。インターンシップの期間は1年次夏期休業中、1年次後期の任意の期間、1年次から2年次の間の春期休業中、2年次夏期休業中の4タームとする。（実習先の事務所の種別、指導者の資格等）建築設計の実務実績のあるチームの1級建築士で、本大学院がインターンシップの指導者として認めた設計者であり、一級建築士事務所とする。また、その実習を効果的なものとするために、事前指導、事後指導を実施する。	・大学院修了後、実社会の中で即活躍できるようにするために、建築設計の実務能力として必要な業務知識を具体的に述べる事ができる（客観性・自律性一学識と倫理） ・一級建築士の指導のもとで指導を受け、企画書・計画書・設計図書・工事監理書の作成等ができるようになる（課題発見・解決力一課題解決力） ・建築設計の補助業務を行うことを通じて、建築設計・工事監理の実務（建築工事の指導監督、建築確認に関するものを含む。）を体験することで実社会で業務を遂行することができる（客観性・自律性一主体的判断力）（課題発見・解決力一社会的役割）（リダーシップ）	・大学院修了後、実社会の中で即活躍できるようにするために、建築設計の実務能力として必要な業務知識を具体的に述べる事ができる（客観性・自律性一学識と倫理） ・一級建築士の指導のもとで指導を受け、関係書類などを作成できるように（課題発見・解決力一課題解決力） ・建築設計の補助業務を行うことを通じて、建築設計・工事監理の実務（建築工事の指導監督、建築確認に関するものを含む。）を体験することで実社会になじむことができる（客観性・自律性一主体的判断力）（課題発見・解決力一社会的役割）（リダーシップ）
インターンシップD	家政学研究科 建築・デザイン専攻	1	4	学外の一級建築士事務所において、一級建築士の指導により、実社会における設計・監理の実務を実施する。事前に学内オリエンテーション、事後に学内成果発表会を実施する。インターンシップの期間は1年次夏期休業中、1年次後期の任意の期間、1年次から2年次の間の春期休業中、2年次夏期休業中の4タームとする。（実習先の事務所の種別、指導者の資格等）建築設計の実務実績のあるチームの1級建築士で、本大学院がインターンシップの指導者として認めた設計者であり、一級建築士事務所とする。また、その実習を効果的なものとするために、事前指導、事後指導を実施する。	・大学院修了後、実社会の中で即活躍できるようにするために、建築設計の実務能力として必要な業務知識を具体的に述べる事ができる（客観性・自律性一学識と倫理） ・一級建築士の指導のもとで指導を受け、企画書・計画書・設計図書・工事監理書の作成等ができるようになる（課題発見・解決力一課題解決力） ・建築設計の補助業務を行うことを通じて、建築設計・工事監理の実務（建築工事の指導監督、建築確認に関するものを含む。）を体験することで実社会で業務を遂行することができる（客観性・自律性一主体的判断力）（課題発見・解決力一社会的役割）（リダーシップ）	・大学院修了後、実社会の中で即活躍できるようにするために、建築設計の実務能力として必要な業務知識を具体的に述べる事ができる（客観性・自律性一学識と倫理） ・一級建築士の指導のもとで指導を受け、関係書類などを作成できるように（課題発見・解決力一課題解決力） ・建築設計の補助業務を行うことを通じて、建築設計・工事監理の実務（建築工事の指導監督、建築確認に関するものを含む。）を体験することで実社会になじむことができる（客観性・自律性一主体的判断力）（課題発見・解決力一社会的役割）（リダーシップ）
特論 伝達デザイン	家政学研究科 建築・デザイン専攻	1	2	現代人の生活は、様々なメディアを媒体とした情報伝達に支えられている。しかもそれは人間の生活に欠かせない重要な役割を担っている。授業ではその重要さを国内・国外を問わず、実際の情報伝達の役割を担っている多くのデザイナーとコミュニケーションデザインを考察することで理解できるようにする。またカヌス広告などを見ることで、世界最新のビジュアルコミュニケーションのトレンドに接しながら、優れた発想を理解し学生が自らも発信できる発想力を養うことができる。毎回行うミニ演習にて実際に情報伝達をする為のアイデアを考える訓練を同時にしながら、ビジュアルコミュニケーション・デザインの創造性を身につけることができる。	・伝達デザインの様々な手法について、講義とミニ演習を体験する事でより深く修得することが出来る。（客観性・自律性一主体的判断力） ・講義とミニ演習を繰り返し体験する事で、伝達デザインの原点となる思考・判断・表現力を身につけることができるようになる。（客観性・自律性一学識と倫理） ・幅広く伝達デザインの知識を得ることで、デザイン制作において高度なディレクション課題発見・解決力一課題解決力が身に付く。（課題発見・解決力一課題解決力） ・デザインを通して世の中を幅広く知る事により、変化する生活に対する感性が大幅に増す。（課題発見・解決力一課題解決力） ・伝達デザインの本質を理解・修得することで、多角的でより高度なデザイン提案ができる。（課題発見・解決力一社会的役割）	・伝達デザインの様々な手法について、講義とミニ演習を体験する事で深く修得することが出来る。（客観性・自律性一主体的判断力） ・講義とミニ演習を繰り返し体験する事で、伝達デザインの原点となる思考・判断・表現力を身につけることができるようになる。（客観性・自律性一学識と倫理） ・幅広く伝達デザインの知識を得ることで、デザイン制作においてのディレクション課題発見・解決力一課題解決力の基礎が身に付く。（課題発見・解決力一課題解決力） ・デザインを通して世の中を知る事により、変化する生活に対する感性が増す。（課題発見・解決力一課題解決力） ・伝達デザインの本質を理解・修得することで、より高度なデザイン提案ができる。（課題発見・解決力一社会的役割）
伝達デザイン演習	家政学研究科 建築・デザイン専攻	1	2	人やモノ、空間がネットワークでつながり、生活様式が絶えず変化していく現在、それに対応すべく情報伝達のあり方も変わり続けている。授業では、生活における様々な情報伝達の枠組みのなかでも視覚的分野を主な対象に、その知識や技術を修得することができる。社会的な視点から生活者が媒体を通して起こす行動を観察することで、デザインに生かすための手法、デザインのプロセスを理解することができる。演習の課題として問題提起や解決策の提案を行い、具体的な制作品と書類によるプレゼンテーション技術を身につけることができる。	・人々の生活における様々な視覚媒体、その背景にある生活者の行動や社会問題を総合的に理解することにより、視覚伝達デザインに関わる高度な知識を身につけることができる。（客観性・自律性一学識と倫理） ・視覚伝達デザインの高度な技術と思考を習得し、問題提起から提案を行い判断し、企画書やレポートによる、実践的高レベルのプレゼンテーションをすることができる。（客観性・自律性一主体的判断力）（課題発見・解決力一社会的役割）（課題発見・解決力一課題解決力） ・自らの考えを発展した具体的で高いレベルのデザイン作品を提案できる。（客観性・自律性一主体的判断力）（課題発見・解決力一社会的役割）（課題発見・解決力一課題解決力） ・作品の完成へ向けて、リサーチ・発想・プランニング・視覚化・提案・実行・改良のデザインプロセスを通じ、問題解決を能動的に関係者と協働しながら取り組むことができる。（リダーシップ）	・人々の生活における様々な視覚媒体、その背景にある生活者の行動や社会問題を理解することにより、視覚伝達デザインに関わる知識を身につけることができる。（客観性・自律性一学識と倫理） ・自らの考えを発展したデザイン作品を提案できる。（客観性・自律性一主体的判断力）（課題発見・解決力一社会的役割）（課題発見・解決力一課題解決力） ・作品の完成へ向けて、リサーチ・発想・プランニング・視覚化・提案・実行・改良のデザインプロセスを通じ、問題解決に取り組むことができる。（リダーシップ）
特論 プロダクトデザイン	家政学研究科 建築・デザイン専攻	1	2	人はデザインを通じて毎日の生活の姿を形作っている。デザインとは、深く生活を理解し造形によって最適な生活提案をすることも出来る。本特論では、より良い生活が必ずしも量的な多さ・物質的な豊かさの追求ではないことに気づきつつある現代において、人間や社会の多様性、環境への配慮等を備えた製品企画に基づき、調和のとれた生活を支えるデザインとはいかなるものも考察する。	・生活の場における「人」と「もの」との関係について学び、美的な生活に関するプロダクトデザインのかかわりを知ることができる。（客観性・自律性一学識と倫理） ・プロダクトデザインにおける現状調査や分析をすることができる。（客観性・自律性一主体的判断力）（課題発見・解決力一社会的役割）（課題発見・解決力一課題解決力） ・検討した結果としてカタチの提案ができる。（客観性・自律性一主体的判断力）（課題発見・解決力一社会的役割）（課題発見・解決力一課題解決力） ・プロダクトデザインにおける「美的要素」、「社会性」、「機能・構造・材料・製造技術」、「販売」、「使用後の処理」を理解する能力を身に付ける。（客観性・自律性一学識と倫理）	・生活の場における「人」と「もの」との関係について学び、美的な生活に関するプロダクトデザインのかかわりを知ることができる。（客観性・自律性一学識と倫理） ・検討した結果としてカタチの提案ができる。（客観性・自律性一主体的判断力）（課題発見・解決力一社会的役割）（課題発見・解決力一課題解決力） ・社会と自分との関係に関心が向かい意欲が増す。（リダーシップ）

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
プロダクトデザイン演習	家政学研究科 建築・デザイン専攻	1	2	21世紀に入って、人間を取り巻く環境は著しく変化している。無限と思われた地球環境は有限である事に私たち現代人は直面している。人間が作り出したプロダクト製品は、単に生産して消費する今のシステムの見直しをしなければならぬ。そのような大きな視点からこの演習はプロダクトデザインの在り方を研究し提案を行う。そのテーマについては担当教員との協議により決定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロダクトデザインの知識、技術と高い倫理観を身につけることができる。(客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>・プロダクトデザインの在り方を提案できるようになる。(客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割)</li> <li>・プロダクト作品制作を通して提示することができる。(課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・社会と自分との関係に関心が向かい意欲が増す。(リーダーシップ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロダクトデザインの知識、技術と高い倫理観を身につけることができる。(客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>・プロダクトデザインの在り方を提案できるようになる。(客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割)</li> <li>・プロダクト作品制作を通して提示する事ができる。(課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・社会と自分との関係に関心が出る。(リーダーシップ)</li> </ul>
特論 マーケティング	家政学研究科 建築・デザイン専攻	1	2	企業そのものや製品等をまず戦略的な思考からマーケットを導き出し、デザインが考えられるようになる。具体的には、60年代より半世紀に渡りアメリカにおいて築き上げてきた広告モッドを研鑽し、それを学生により分かりやすくテキストとした「4Steps Planning Methods」と「Buying System」を使い解説する。デザインの制作に取りかかる前に、市場の知識を得、消費者の心理（コンシューマーインサイト）を理解し、ビジネスで重要な書類（ステートメント）をフォーマットに則して制作する課題発見・解決力一課題解決力取得する。その上でデザイン制作ができるようになり、相手に対し論理的な説得力のある思考と表現ができるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業そのものや製品等を戦略的な思考からマーケットを導き出し、高いレベルのデザインが考えられるようになる。(客観性・自律性一主体的判断力)</li> <li>・デザインの制作に取りかかる前に市場の知識を得、消費者の心理（コンシューマーインサイト）を幅広く修得できるようになる。(客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>・ビジネスで重要な書類（ステートメント）をフォーマットに則して制作する高いレベルの課題発見・解決力一課題解決力取得する。(課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・デザイン制作をして、相手に対し論理的な説得力のある思考と高いレベルの表現ができるようになる。(客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・私たちの生活を取り巻く市場に関心を持ち、生活者としての意欲が高まる。(客観性・自律性一主体的判断力) (リーダーシップ)</li> <li>・マーケティングの本質を理解・修得することで、効率の良く適切なデザイン提案ができる。(課題発見・解決力一社会的役割)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業そのものや製品等を戦略的な思考からマーケットを導き出し、デザインが考えられるようになる。(客観性・自律性一主体的判断力)</li> <li>・デザインの制作に取りかかる前に市場の知識を得、消費者の心理（コンシューマーインサイト）を修得できるようになる。(客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>・ビジネスで重要な書類（ステートメント）をフォーマットに則して制作する課題発見・解決力一課題解決力取得する。(課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・デザイン制作をして、相手に対し論理的な説得力のある思考と表現ができるようになる。(客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・私たちの生活を取り巻く市場に関心を持ち、生活者としての意欲が高まる。(客観性・自律性一主体的判断力) (リーダーシップ)</li> <li>・マーケティングの本質を理解・修得することで、効率の良いデザイン提案ができる。(課題発見・解決力一社会的役割)</li> </ul>
特論 パブリックデザイン	家政学研究科 建築・デザイン専攻	1	2	グラフィックとプロダクトの観点からパブリックデザインについて学び、公共空間の構成要素について理解する。おもに実践的なフィールドワークを通じて、その問題点を把握、分析し、公共空間における人、もの、情報の相互関係について議論し考察する。公共施設、トランスポートーション、サイン、ストリート・ファニチャー、照明、広告など、機能面と環境面における役割を学びつつ、持続可能で多様性のある社会を目指す上で、必要なパブリックデザインとは何かについて考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフィックとプロダクトの観点から、文献研究・フィールドワークなどを通じて、パブリックデザインについて学びその方策を研究し修得できるようにする。(客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>・パブリックデザインは、欧州で盛んな研究テーマであることから、公共サインのありかた、サイン・広告の基準や制度、科学的な研究、先進デザインを学びつつ、チームでの作業や実践を通じた活動で、この分野についての理解を深める事ができる。(客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>・実践的なフィールドワークを通して、その問題を分析し、新たなデザイン的な提案に向けて思考、判断する事ができる。(客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割)</li> <li>・それにより具体的なデザイン提案ができる課題発見・解決力一課題解決力を得られる。(課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・その提案が公共とどのような効果をもたらすか理解でき、社会に対する関心や意欲が深まる。(課題発見・解決力一社会的役割)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフィックとプロダクトの観点から、文献研究・フィールドワークなどを通じて、パブリックデザインについて学びその方策を研究し修得できるようにする。(客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>・パブリックデザインは、欧州で盛んな研究テーマであることから、公共サインのありかた、サイン・広告の基準や制度、科学的な研究、先進デザインを学びつつ、チームでの作業や実践を通じた活動で、この分野についての理解を深める事ができる。(客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>・実践的なフィールドワークを通して、その問題を分析し、新たなデザイン的な提案に向けて思考、判断する事ができる。(客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割)</li> <li>・デザイン提案ができる課題発見・解決力一課題解決力を得られる。(課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・その提案が公共とどのような効果をもたらすか理解でき、社会に対する関心や意欲が深まる。(リーダーシップ)</li> </ul>
パブリックデザイン演習	家政学研究科 建築・デザイン専攻	1	2	文献研究・フィールドワークなどを通じて、パブリックデザインについて学びその方策を研究している。おもに実践的なフィールドワークを通して、その問題を分析し、新たなデザイン的な提案を行うことをめざす。パブリックデザインは、欧州で盛んな研究テーマであることから、公共サインのありかた、サイン・広告の基準や制度、科学的な研究、先進デザインを学びつつ、チームでの作業や実践を通じた活動で、この分野についての理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献研究・フィールドワークなどを通じて、パブリックデザインについて学びその方策を研究し知識と修得ができる。(客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>・パブリックデザインは、欧州で盛んな研究テーマであることから、公共サインのありかた、サイン・広告の基準や制度、科学的な研究、先進デザインを学びつつ、チームでの作業や実践を通じた活動で、この分野についての理解を深める事ができる。(客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>・実践的なフィールドワークを通して、その問題を分析し、新たなデザイン的な提案を行う事ができる。(客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割)</li> <li>・具体的なデザイン提案ができる課題発見・解決力一課題解決力を得られる。(課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・その提案が公共とどのような効果をもたらすか理解でき、社会に対する関心や意欲が深まる。(リーダーシップ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献研究・フィールドワークなどを通じて、パブリックデザインについて学びその方策を研究し知識と理解ができる。(客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>・パブリックデザインは、欧州で盛んな研究テーマであることから、公共サインのありかた、サイン・広告の基準や制度、科学的な研究、先進デザインを学びつつ、チームでの作業や実践を通じた活動で、この分野についての理解を深める事ができる。(客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>・フィールドワークを通して、その問題を分析し、新たなデザイン的な提案を行う事ができる。(客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割)</li> <li>・具体的なデザイン提案ができる課題発見・解決力一課題解決力を得られる。(課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・その提案が公共とどのような効果をもたらすか理解でき、社会に対する関心や意欲が深まる。(リーダーシップ)</li> </ul>
建築・デザイン特別研究Ⅰ	家政学研究科 建築・デザイン専攻	1	4	博士前期課程の授業などを通じて必要な知識を身につけ、その分野で自らテーマを設定し、研究計画を構築し、指導教員からアドバイスを受けながら研究を遂行し、適宜、報告・発表を行い、問題設定の妥当性、結果の意義を議論しながら研究を特別研究第1・2・3と進め、最終的に修了論文・修了制作に纏め上げる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題が明確で、テーマ設定が適切に設定できる (客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>・事実調査・文献資料などの探索が十分にできる (課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・引用等が適切で、論文としての体裁が整えられる (課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・調査分析の内容の記述や展開が合理的に行える (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割) (課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・先行研究を検討・吟味できる (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割)</li> <li>・分析方法を明確にし、論理展開に一貫制を持たせることができる (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割)</li> <li>・結果としての結論や「かたち」にオリジナリティを待たせることができる (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割) ・調査・サーベイ等において調査先の方々と協働して計画的に行動し十分な結果を得ることができる (リーダーシップ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題が明確で、テーマ設定が設定できる (客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>・事実調査・文献資料などの探索ができる (課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・論文としての体裁が整えられる (課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・調査分析の内容の記述や展開が行える (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割) (課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・先行研究を検討・吟味できる (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割)</li> <li>・論理展開に一貫制を持たせることができる (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割)</li> <li>・結果としての結論や「かたち」にオリジナリティを待たせることができる (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割) ・調査・サーベイ等において調査先の方々と協働して行動しある程度の結果を得ることができる (リーダーシップ)</li> </ul>
建築・デザイン特別研究Ⅱ	家政学研究科 建築・デザイン専攻	1	4	博士前期課程の授業などを通じて必要な知識を身につけ、その分野で自らテーマを設定し、研究計画を構築し、指導教員からアドバイスを受けながら研究を遂行し、適宜、報告・発表を行い、問題設定の妥当性、結果の意義を議論しながら研究を特別研究第1・2・3と進め、最終的に修了論文・修了制作に纏め上げる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題が明確で、テーマ設定が適切に設定できる (客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>・事実調査・文献資料などの探索が十分にできる (課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・引用等が適切で、論文としての体裁が整えられる (課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・調査分析の内容の記述や展開が合理的に行える (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割) (課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・先行研究を検討・吟味できる (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割)</li> <li>・分析方法を明確にし、論理展開に一貫制を持たせることができる (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割)</li> <li>・結果としての結論や「かたち」にオリジナリティを待たせることができる (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割) ・調査・サーベイ等において調査先の方々と協働して計画的に行動し十分な結果を得ることができる (リーダーシップ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題が明確で、テーマ設定が設定できる (客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>・事実調査・文献資料などの探索ができる (課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・論文としての体裁が整えられる (課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・調査分析の内容の記述や展開が行える (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割) (課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・先行研究を検討・吟味できる (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割)</li> <li>・論理展開に一貫制を持たせることができる (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割)</li> <li>・結果としての結論や「かたち」にオリジナリティを待たせることができる (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割) ・調査・サーベイ等において調査先の方々と協働して行動しある程度の結果を得ることができる (リーダーシップ)</li> </ul>

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
建築・デザイン特別研究Ⅲ	家政学研究科 建築・デザイン専攻	2	6	博士前期課程の授業などを通じて必要な知識を身につけ、その分野で自らテーマを設定し、研究計画を構築し、指導教員からアドバイスを受けながら研究を遂行し、適宜、報告・発表を行い、問題設定の妥当性、結果の意義を議論しながら研究を特別研究第1・2・3と進め、最終的に修了論文・修了制作に纏め上げる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題が明確で、テーマ設定が適切に設定できる (客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>・事実調査・文献資料などの探索が十分にできる (課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・引用等が適切で、論文としての体裁が整えられる (課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・調査分析の内容の記述や展開が合理的に行える (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割) (課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・先行研究を検討・吟味できる (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割)</li> <li>・分析方法を明確にし、論理展開に一貫性を持たせることができる (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割)</li> <li>・結果としての結論や「かたち」にオリジナリティを待たせることができる (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割) ・調査・サーベイ等において調査先の方と協働して計画的に行動し十分な結果を得ることができる (リーダーシップ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題が明確で、テーマ設定が設定できる (客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>・事実調査、文献資料などの探索ができる (課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・論文としての体裁が整えられる (課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・調査分析の内容の記述や展開が行える (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割) (課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>・先行研究を検討・吟味できる (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割)</li> <li>・論理展開に一貫性を持たせることができる (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割)</li> <li>・結果としての結論や「かたち」にオリジナリティを待たせることができる (客観性・自律性一主体的判断力) (課題発見・解決力一社会的役割) ・調査・サーベイ等において調査先の方と協働して行動しある程度の結果を得ることができる (リーダーシップ)</li> </ul>
現代社会と児童特論	家政学研究科 児童学専攻	1	2	現在の子ども家庭福祉の問題について、仮説検証的なアプローチや探索的なアプローチを通して考える力を身につけることを目的とする。主に、社会的養護について焦点をあてつつ、子ども家庭福祉領域について探究し、福祉的な視点での支援や研究方法について学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.子ども家庭福祉分野の研究を進める際に必要な知識を習得し、研究計画を考えられる (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)。</li> <li>2.今日の子ども家庭福祉分野の動向と傾向について理解し、その背景にある理論について説明できる (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)。</li> <li>3.子ども家庭福祉分野の課題について調査し、その対応策を実証する研究計画を立てることができる (DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.子ども家庭福祉分野の研究を進める際に必要な知識を習得する (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)。</li> <li>2.今日の子ども家庭福祉分野の動向と傾向について理解する (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)。</li> <li>3.子ども家庭福祉分野の課題について調査する研究計画を立てることができる (DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)。</li> </ol>
現代社会と児童演習	家政学研究科 児童学専攻	1	2	子ども家庭福祉に関する、研究方法の実際について学ぶ。主に児童虐待や子どもの貧困など、深刻化している子ども家庭福祉問題について、様々な観点から究明する方法を学び、これからの子ども家庭福祉のあり方を考える。具体的な、社会的養護における課題の中から、受講者自身の関心に基づきテーマを選択し、論文等からレジュメを作り、発表等を行う。発表についてディスカッションを行ないながら、子ども家庭福祉研究の方法論を習得し、子ども家庭福祉の課題について究明することができるようにすることを旨とします。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.児童虐待、子どもの貧困問題について理解し、社会的役割とその課題について説明することができる (DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割)</li> <li>2.子ども家庭福祉に関する論文を読み、研究の手法、課題について説明でき、解決策について提示することができる (DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力)。</li> <li>3.様々な子ども家庭福祉の問題について、他者と議論して検証することができる (DP3 リーダーシップ)。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.児童虐待、子どもの貧困問題について理解し、課題について説明することができる (DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割)</li> <li>2.子ども家庭福祉に関する論文を読み、研究の手法、課題について、説明することができる (DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力)。</li> <li>3.様々な子ども家庭福祉の問題について、他者と議論して検証することができる (DP3 リーダーシップ)。</li> </ol>
人間関係学特論	家政学研究科 児童学専攻	1	2	生涯発達における社会・情動発達の原理を理解し、人間関係におけるそれらの働きと課題を考察する。人間関係の発達において、社会・情動の発達が果たす役割を理解するとともに、具体的な生活の場における人間関係 (家族の人間関係、保育所・幼稚園・学校における人間関係、地域・社会における人間関係)の展開やそこで生じる課題や危機を捉え、臨床発達の立場からの支援・対応について考える。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.初期の母子相互作用について理解し、説明できる (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>2.情動の役割と発達について理解し、説明できる (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>3.気質とパーソナリティの発達について理解し、説明できる (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>4.社会性の発達について理解し、説明できる (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>5.アタッチメントの発達について理解し、説明できる (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>6.自己の発達について理解し、説明できる (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>7.各発達側面における研究的課題や問題について理解し、自らの研究課題として探求することができる (DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.初期の母子相互作用について理解し、説明できる (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>2.情動の役割と発達について理解し、説明できる (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>3.気質とパーソナリティの発達について理解し、説明できる (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>4.社会性の発達について理解し、説明できる (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>5.アタッチメントの発達について理解し、説明できる (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>6.自己の発達について理解し、説明できる (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>7.各発達側面における研究的課題や問題について探求することができる (DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)</li> </ol>
人間関係学演習	家政学研究科 児童学専攻	1	2	「人間関係学特論」での理論的基礎をベースとして、人間関係、社会・情動発達における理解と支援について、文献購読・議論をもとに考察する。子どもが生活する様々な場面 (家庭、幼稚園、保育所・学校、地域等)における、発達の危機や課題を理解し、その支援・対応について具体的な実践の分析から考える。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.人間関係、社会・情動の発達のアセスメントの基本的姿勢や考え方、および発達支援・介入の具体的な方法について理解し、その意義を含めて説明できる (DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割)</li> <li>2.様々な文献の精読を通して、支援事例への理解を深めるとともに、理論と実践を結びつけ議論し、他者と協働しながら検証することができる。 (DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) (DP3 リーダーシップ)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.人間関係、社会・情動の発達のアセスメントの基本的姿勢や考え方、および発達支援・介入の具体的な方法について理解し、その意義を含めて説明できる (DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割)</li> <li>2.様々な文献の精読を通して、支援事例への理解を深めるとともに、理論と実践を結びつけ、議論・検証することができる。 (DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) (DP3 リーダーシップ)</li> </ol>
幼児教育・保育学特論	家政学研究科 児童学専攻	1	2	幼児教育・保育の実践現場における現代的課題を踏まえたうえで、子どもの育ちや保護者の支援、保育者の専門性の向上を考えていく必要がある。こうした視点から、文献購読、事例検討を行い、保育の質を向上させ、自らが保育者としても資質向上を図ることができるような実践力を学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育・保育における現代的課題についてさまざまな論文・文献購読から深思し、問題の本質を整理し、具体的なアプローチを創造することができる。 (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>2. 児童虐待、子どもの貧困問題、保護者の養育態度などへの理解を深め、それらをふまえた子育て支援の方策を考えた説明したり説明したりすることができる。 (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>3. 配慮が必要な子どもについての実情や課題を整理し、コンサルテーションに必要な知識や技能を十分に習得し議論することができる。 (DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)</li> <li>4. 小学校との接続の観点からスタートカリキュラムを理解し、幼児期からの資質能力の育ちを見通した保育内容を理解し、適切に説明することができる。 (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>5. 保育者の専門性を高め、資質向上につながるための記録論、保育援助論について深く理解し、それらを活用して積極的に議論することができる。 (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) (DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育・保育における現代的課題についてさまざまな論文・文献購読から深思し、問題を整理し、具体的なアプローチを考えることができる。 (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>2. 児童虐待、子どもの貧困問題、保護者の養育態度などへの理解を深め、それらをふまえた子育て支援の方策を考えた説明したり説明したりすることができる。 (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>3. 配慮が必要な子どもについての実情や課題を整理し、コンサルテーションに必要な知識や技能を身に付け活用することができる。 (DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)</li> <li>4. 小学校との接続の観点からスタートカリキュラムを理解し、幼児期からの資質能力の育ちを見通した保育内容を理解し、説明することができる。 (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>5. 保育者の専門性を高め、資質向上につながるための記録論、保育援助論について理解し、それらを活用して議論することができる。 (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) (DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)</li> </ol>
幼児教育・保育学演習	家政学研究科 児童学専攻	1	2	幼児教育・保育における現代的課題をもって保育の参与観察を行い、事例検討を通して、保育の質を分析する方法や、保育者の幼児理解、遊び理解、援助方法についての見識を深めていく。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実践の参与観察から、子どもの育ちや遊びの状況をとらえ、保育の課題を整理するなど、保育実践をあらゆる視点から分析・考察し、適切な記録にまとめることができる (DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>2. 観察記録をもとに保育実践ととの保育検討を十分にを行い、配慮が必要な子どもの援助法やより良い子どもの育ちにつながる実践方法について提案することができる。 (DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) (DP3 リーダーシップ)</li> <li>3. 遊びを通した総合的な指導の方法を理解し、幼児期にふさわしい教育を実現する保育者としての幼児理解、遊び理解、援助方法について、深い見識をもち議論することができる。 (課題発見・解決力一社会的役割) (DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実践の参与観察から、子どもの育ちや遊びの状況をとらえ、保育実践を分析・考察し、記録にまとめることができる。 (DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力)</li> <li>2. 観察記録をもとに保育実践ととの保育検討を行い、配慮が必要な子どもの援助法やより良い子どもの育ちにつながる実践方法について考えることができる。 (DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) (DP3 リーダーシップ)</li> <li>3. 遊びを通した総合的な指導の方法を理解し、幼児期にふさわしい教育を実現する保育者としての幼児理解、遊び理解、援助方法について、理解することができる。 (課題発見・解決力一社会的役割) (DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力)</li> </ol>
教育課程・教授法特論	家政学研究科 児童学専攻	1	2	本講義では、幼児教育と小学校教育の連携を踏まえた幼小教育課程の編成・実施、幼児教育との接続を明確にした小学校低学年における授業構想を論ずる。特に、小学校低学年における各教科等の指導内容や指導方法、教材研究の在り方等に視点を当て、幼児教育で身に付けたことを教科等の学習でどのように生かしていくかを考察する。この講義により、子どもの協働的な学びの在り方について問題意識を高め、教育課程の編成、実施、評価、改善の方法について理解する。また、指導方法の改善に関する専門的理論を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼小連携の視点を踏まえた小学校教育課程の編成・実施、評価、改善の方法を理解し、説明できる。 (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>2. 幼児教育との接続を踏まえた授業を詳細にかつ具体的に構想し、説明できる。 (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>3. 小学校低学年において、幼児教育で身に付けたことを取り入れて、各教科等の指導の在り方を各教科等の特性に合わせて考察できる。 (DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小学校教育課程の編成・実施、評価、改善の方法を理解し、説明できる。 (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>2. 幼児教育との接続を踏まえた授業を構想し、説明できる。 (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)</li> <li>3. 小学校低学年において、幼児教育で身に付けたことを取り入れて、各教科等の指導の在り方を考察できる。 (DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)</li> </ol>

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	到達目標 (成績評価C)
教育課程・教授法演習	家政学研究科 児童学専攻	1	2	本演習は、小学校低学年における幼小連携を踏まえた教育課程の編成と、各教科等の授業構想を対象とする。学生の関心や必要に応じて、教育課程や授業構想に関する具体的なテーマを設定し、教育現場における各種意識調査や実践事例の調査・検討、文献研究等を行い、研究報告としてまとめる。また、研究報告を発表し、ディスカッションを通して教育課程や授業構想についての知識や技能を習得するとともに、教職の専門性への理解を深める。	1. 研究報告の作成や発表、ディスカッションを通して、互いの課題意識や研究成果を知り、教職の専門性について理解し、その意義を表現できる。 (DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割) 2. 教育課程や授業構想について、課題を明確にしたテーマを設定し、適切な各種意識調査や実践事例の調査・検討や文献研究を通して、多角的に考察できる。 (DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力) 3. 理論と実践を結び付けて成果を研究報告としてまとめたり、成果と課題についてディスカッションしたりできる。 (DP3 リーダーシップ)	1. 研究報告の作成や発表、ディスカッションを通して、互いの課題意識や研究成果を知り、その意義を表現できる。 (DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割) 2. 教育課程や授業構想について、テーマを設定し、適切な各種意識調査や実践事例の調査・検討や文献研究を通して、考察できる。 (DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力) 3. 理論と実践を結び付けて成果を研究報告としてまとめることができる。 (DP3 リーダーシップ)
発達臨床学特論	家政学研究科 児童学専攻	1	2	発達心理学の理論を踏まえ、主に乳幼児期、児童期に起こる様々な発達臨床的な問題について、障がいがある場合の特徴も含め理解を深めるために講義および文献研究を行う。特に、乳幼児期、児童期の発達上の問題として取り上げられることが多い、言語発達、知的発達とそれらの障がいについて取り上げ、さらに、発達障がい等をめぐる問題について理解を深める。	1.発達臨床の基礎としての発達心理学の理論について、具体的な乳幼児・児童の姿と照らし合わせながら説明することができる。 (DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理) 2.乳幼児期、児童期の発達過程で起こる様々な発達上の問題、特に、言語発達、知的発達とそれらの障がいについて、彼らを取り巻く人的、物的、社会的環境を含めて説明できる。 (DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力)	1.発達臨床の基礎としての発達心理学の理論について説明することができる。 (DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理) 2.乳幼児期、児童期の発達過程で起こる様々な発達上の問題に関心をもち、特に、言語発達、知的発達とそれらの障がい、発達障がいについて説明できる。 (DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力)
発達臨床学演習	家政学研究科 児童学専攻	1	2	発達のアセスメントの基本的考え方やおよび多様な支援方法について講義する。また、発達心理学の理論や発達臨床上の問題に関する理解を基礎として、発達支援事業所、特別支援教室、保育所等におけるフィールドワークを行い、実際の乳幼児・児童の発達上のニーズと対応させながらアセスメントや支援方法について実践的に学ぶ。	1.知的発達、言語発達、発達障がい等について基本的なアセスメント方法について実践する経験を通して基本的なスキルを把握することができる。 (DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割) 2.多様な支援方法について障害特性との関連で説明することができる。 (DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力) 3.フィールドワークを通して、乳幼児・児童の個々の発達上の支援ニーズおよび養育者の支援ニーズについて臨床発達心理学視点から考察し、課題に臨むことができる。 (DP3 リーダーシップ)	1.知的発達、言語発達、発達障がい等について基本的なアセスメント方法と支援方法について説明することができる。 (DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割) (DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力) 2.フィールドワークを通して、乳幼児・児童の個々の発達上の支援ニーズについて臨床発達心理学視点から考察し、課題に臨むことができる。 (DP3 リーダーシップ)
子ども家庭生活特論	家政学研究科 児童学専攻	1	2	人間にとって家庭は自らを世界に位置づける本拠であるが、とりわけ子どもにとってはその心身、習慣、文化の形成に影響を与える生活空間でもある。本科目では家庭という世界の本質と独自性を踏まえた上で、現代の子どもと子どもを取り巻く家庭生活の諸相について、人と人、人とモノ、その人自身のアイデンティティとの連関から問題点を抽出し考究する。これらを通して家政学の児童学研究として人間的・社会的視座を捉え、課題の理解とその解決に向けて創造できる思考・態度を身につける。	1.科目概要に記した事柄について、高い倫理性を以って広い視野に立ち専門的な学識を深めるとともに家政学的視座を獲得している。 (DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理) 2.子どもと子どもの生活環境としての家庭の意義及びその生活の諸相について、人間存在の独自性を視座に主体的、自律的に問い説明できる。 (DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力) 3.現代の家庭生活とそれをめぐる諸課題に関する学術研究の分析を通して本質に迫る視座を獲得し、解決への具体的な手立ての思索を行い、人間的・社会的意義を見出している。 (DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割)(DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力) 4.上記の事柄について、専門的学識を指向する他者と協働し課題に臨むことを通じて、家政学研究として人間的・社会的に広く貢献する思考・態度を身につけている。 (DP3 リーダーシップ)	1.科目概要に記した事柄について、倫理性を以って自らの専門的な学識を深めている。 (DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理) 2.子どもの生活環境としての家庭の意義及びその生活の諸相について主体的、自律的な視座を以って問うことができる。 (DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力) 3.現代の家庭生活とそれをめぐる諸課題に関する学術研究を通して、課題解決への人間的・社会的意義を見出している。 (DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割)(DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力) 4.上記の事柄について、専門的学識を指向する他者と協働し、課題に臨むことができる。 (DP3 リーダーシップ)
子ども家庭生活演習	家政学研究科 児童学専攻	1	2	本科目では、子どもと子どもを取り巻く家庭及びそれと緊密な環境において生じている諸現象を、自らの課題として引き受け、転化、追究した上で、発表・討論などを通してその思考を深化、構築することができるようになる。また、その追究のための自らの視座と方法を慮する一連の作業を以って、児童及び児童をめぐる今日的諸問題の解決の可能性の一端を創造的に探ることができ思考・態度を身につける。	1.科目概要に記した事柄について、特論で醸成した高い倫理性と広い視野に立ち、学生が自主的に選定したテーマについて家政学的視座をもって学識を深めている。 (DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理) 2.子どもと子どもを取り巻く家庭とそれと緊密な環境における諸課題について、特論で醸成した自らの視座を以って根本的な思索およびその解決のための手立てを主体的、自律的に思索し研究を遂行している。 (DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力) 3.特論で醸成した人間的・社会的意義を見出した現代の家庭生活とそれをめぐる諸課題に関する特定の学術研究について、倫理性や批判的思考をもってその本質にアプローチし課題解決への具体的な手立てを思索し構築している。 (DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割)(DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力) 4.上記の事柄について、専門的学識を指向する他者と協働し課題に臨むことを通じて、家政学研究として創造的・実践的に広く社会に貢献する思考・態度が身につけている。 (DP3 リーダーシップ)	1.科目概要に記した事柄について、特論で醸成した倫理性と視野に立ち、学生が自主的に選定したテーマについて家政学的視座を生かしている。 (DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理) 2.子どもと子どもを取り巻く家庭とそれと緊密な環境における諸課題について、特論で醸成した自らの視座を以って判断し研究を遂行している。 (DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力) 3.特論で醸成した人間的・社会的意義を見出した現代の家庭生活とそれをめぐる諸課題に関する学術研究について、その本質にアプローチし課題解決への具体的な手立てを思索し構築している。 (DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割)(DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力) 4.上記の事柄について、専門的学識を指向する他者と協働し課題に臨むことを通じて、学術研究として社会に貢献する思考・態度が身につけている。 (DP3 リーダーシップ)
保育・教育支援特論	家政学研究科 児童学専攻	1	2	教育・保育の場が抱えている諸課題の理解を深めるとともに、教育・保育支援の歴史の変遷及び理念、思想について教育学・保育学の文献、資料を通して探究する。特に、教育・保育の制度及び教育・保育計画の立案、環境の構成、保育・教育方法に関して実践の展開を解説する。さらに、子育てに課題を抱える保護者への支援も視野に入れ、地域における子育て支援のニーズや意義を研究する。	1.教育・保育の思想と歴史の変遷について探究し、専門的知識を総合的に習得できるようになる (DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理)。 2.教育・保育の制度やさまざまな支援の実践的取り組みを研究し、実践力を総合的に修得することができるようになる (DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力)。 3.教育・保育の場が抱える諸課題を理解し、児童の保護者や地域の現代的ニーズに応じた実践力を総合的に修得することができる (DP3 リーダーシップ)。	1.教育・保育の思想と歴史の変遷について探究し、専門的知識の基礎を習得できるようになる (DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理)。 2.教育・保育の制度やさまざまな支援の実践的取り組みを研究し、実践力の基礎を修得することができるようになる (DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力)。 3.教育・保育の場が抱える諸課題を理解し、児童の保護者や地域の現代的ニーズに応じた実践力の基礎を修得することができる (DP3 リーダーシップ)。
保育・教育支援演習	家政学研究科 児童学専攻	1	2	臨床発達心理の専門性を学ぶため、発達支援、子育て支援等の基礎的専門性、法制度、倫理等を教育・保育学、発達心理学の文献、資料を通して探求することを中心に行う。	1.臨床発達心理の専門性を学び、発達支援、子育て支援等の基礎的専門性、法制度、倫理等を総合的に理解できるようになる (DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理)。 2.保育・教育支援特論の学びを踏まえ、教育・保育に関する歴史や制度、家庭が抱えている諸課題および発達支援、保護者への支援に求められる専門性について総合的かつ独自の視点をもって理解できる (DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割)。 3.さらに、教育・保育における発達支援や家庭への支援の実践的取り組みについての研究を概観するとともに、実践力を総合的に修得できる (DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力)。 4.研究内容が学術的にどのような位置づけを得、社会でどのように活用されるかを見極めることができる (DP3 リーダーシップ)。	1.臨床発達心理の専門性を学び、発達支援、子育て支援等の基礎的専門性、法制度、倫理等の基礎を理解できるようになる (DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理)。 2.保育・教育支援特論の学びを踏まえ、教育・保育に関する歴史や制度、家庭が抱えている諸課題の理解を深めるとともに、発達支援や保護者への支援に求められる専門性の基礎を理解できるようになる (DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割)。 3.さらに、教育・保育における発達支援や家庭への支援の実践的取り組みに関する研究を概観し、実践力の基礎を修得できる (DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力)。 4.研究内容の学術的立場づけを考察することができる (DP3 リーダーシップ)。
発達心理学特論	家政学研究科 児童学専攻	1	2	発達心理学の歴史の変遷および主要な発達理論の特徴と実践における役割について理解する。それを踏まえ、生涯発達の視点から、主として乳幼児期・学童期における運動、認知、言語、情緒・社会性などの諸側面とそれらの相互関連性および障害がある場合の特徴も含め、近年の国内外における知見に精通するとともに、発達研究における方法論について探求する。	1.発達心理学の歴史の変遷について隣接する領域との関連で説明することができる。 (DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理) 2.主要な発達理論における特徴と実践の役割について具体的に挙げることができる。 (DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理) 3.主として乳幼児期・学童期における発達の諸側面について相互に関連づけてとらえたとともに、障害がある場合の特徴について述べる (DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力)。 4.近年の発達心理学の課題について主体的に見出すことができる (DP3 リーダーシップ)。	1.発達心理学の歴史の変遷について説明することができる。 (DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理) 2.主要な発達理論について具体的に挙げることができる。 (DP1-1 客観性・自律性-学識と倫理) 3.主として乳幼児期・学童期における発達の諸側面についてとらえたとともに、障害がある場合の特徴について述べる (DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力)。 4.近年の発達心理学の課題を見出すことができる。 (DP1-2 客観性・自律性-主体的判断力)
発達心理学演習	家政学研究科 児童学専攻	1	2	人は他者の心をどのように理解するようになるのかについて、人間の発達過程における他者理解に焦点を当て、その理論的背景および最近の発達のアプローチを概観するとともに、家庭や保育・教育の現場において他者理解の発達と障害をどのようにアセスメントし、子育ておよび保育・教育における発達支援に生かしていくのかについて実践的に探究する。	1.人間の発達過程における他者理解の理論的背景について理解し、その社会的意義について説明することができる。 (DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割) 2.他者理解について最近の発達のアプローチの特徴を挙げることができる。 (DP2-2 課題発見・解決力-社会的役割) 3.家庭や保育・教育の現場における他者理解の発達と障害のアセスメントから支援のプロセスについての仮説を提示することができる。 (DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力) 4.アセスメントの結果から、他者理解の発達を効果的に支援する方法を提案し、それを隣接する専門職と協働して実践することができる。 (DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力) (DP3 リーダーシップ)	1.人間の発達過程における他者理解の社会的意義について説明することができる。 (DP2-1 課題発見・解決力-社会的役割) 2.他者理解について最近の発達のアプローチをいくつか挙げる (DP2-2 課題発見・解決力-社会的役割) 3.家庭や保育・教育の現場における他者理解の発達と障害のアセスメントから支援のプロセスについての仮説を提示することができる。 (DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力) 4.他者理解を支援する方法を提案し、それを他者と協働して実践することができる。 (DP2-2 課題発見・解決力-課題解決力) (DP3 リーダーシップ)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
発達障害支援特論	家政学研究科 児童学専攻	1	2	LD、ADHD、自閉症、アスペルガー症候群などの発達障害は、特別支援教育の展開や発達障害者支援法の施行とともに、注目されるようになってきた。本授業では、保育や教育、福祉などの領域において、発達障害の子どもの理解し、支援していくための専門的知見と臨床スキルを習得することができる。また、知能、行動、社会性などの子どもの適応状況に大きく影響する障害特性のアセスメント技法、保育や教育、福祉における効果的な支援技法を文献精査を通して理解することができるようになる。	1.発達障害の支援方法、特別支援教育の近年の動向について十分に理解することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2.発達障害とそれに関連する障害についての国内外の研究動向を十分に理解することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 3.発達障害の子どもの心理、行動等の状態を理解するための最新のアセスメント技法を十分に習得できる。(DP2-2 客観性・自律性一主体的判断力)	1.発達障害の支援方法、特別支援教育の近年の動向についてある程度理解することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2.発達障害とそれに関連する障害についての国内外の研究動向をある程度理解することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 3.発達障害の子どもの心理、行動等の状態を理解するための最新のアセスメント技法をある程度理解できる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)
発達障害支援演習	家政学研究科 児童学専攻	1	2	発達障害に関する基本的な知識を確認した後、現代社会における発達障害の支援について、文献講義について演習形式の授業展開で理解を深めていく。授業方法としては、発達障害への支援方法について臨床発達心理学や障害児教育等の文献および資料を講読し、レジュメをもとに発表や討議を行う。	1.発達障害児の支援に関する研究領域の文献を批判的思考に基づいた探求姿勢で読み、主体的にレビューすることができる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 2.主体的に発表のレジュメを作成し、効果的にプレゼンテーションをすることができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 3.発達障害児の支援に関する基礎知識をもとに、自分独自の考えをまとめて、他者と協働しながら積極的にグループディスカッションに参加することができる。(DP3 リーダーシップ)	1.発達障害児の支援に関する研究領域の文献を読み、ある程度レビューすることができる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 2.発表のレジュメを作成し、プレゼンテーションをすることができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 3.発達障害児の支援に関する基礎知識をもとに考えをまとめて、他者と協働することを意識しながらグループディスカッションに参加することができる。(DP3 リーダーシップ)
表現文化研究特論A	家政学研究科 児童学専攻	1	2	音楽と生涯にわたる関わりを見据え、その基盤となる乳幼児期の音楽にかかわる発達について、文献講義や映像資料等を通して学ぶ。その上で、児童期以降、人の生涯にわたる音楽とのかかわりを考える。さらに、乳幼児・児童を対象とした音楽研究の研究領域、方法論、研究の動向、実践事例などについて学び、理解を深める。	1. 乳幼児期の音楽にかかわる発達について科学的根拠を踏まえた上で理解できるようになる (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)。 2. 音楽教育研究の対象・方法について理解し、実践的な課題に対して研究計画を立てることができるようになる (DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)	1. 乳幼児期の音楽にかかわる発達について理解できるようになる (DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理)。 2. 音楽教育研究の対象・方法について理解できるようになる (DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)。
表現文化研究特論B	家政学研究科 児童学専攻	1	2	美術の作品鑑賞を初動にして、表現文化の広範な有様の中から造形美術としての児童文化財に着目し、その造形技法や材料・用具を分析したうえで、制作者として作品を改良開発しながらオリジナリティを追求し、子どもに向けた造形活動を探究していく。個の表現として作品の成立を主軸としながら、討議と考証を重ねるとともに作品の展示発表に繋がれるよう思考する。	1.児童文化財について検証・考察していくことから、造形表現としての作品を成立させることができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2.材料・用具の精通から子どもと表現としての造形活動プログラムを企画し、実践することができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3.子どもを取り巻く遊びを含めた造形活動の現状を読み取りながら素材等を選別し、適正な取組を提供することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) (DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)	1.児童文化財について検証・考察していくことから、造形表現としての作品を目指すことができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2.材料・用具の精通から子どもと表現としての造形活動プログラムを企画することができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3.子どもを取り巻く造形活動の現状を読み取りながら、素材等を選別し適正な取組を立案することができる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) (DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)
表現文化研究演習A	家政学研究科 児童学専攻	1	2	関連・隣接分野の研究動向を踏まえたうえで、音楽教育研究の文献講義、フィールド観察を行い、音楽教育研究の動向について学ぶ。さらに音楽教育研究の方法、対象、研究の動向について理解を深め、音楽と生涯にわたる関わり、社会生活における音楽の意義を見据えたうえで、音楽教育の現代的課題について思考できるようになる。	1. 乳幼児期を起点とした人間の生涯にわたる音・音楽とのかかわりを視野に入れて、現代社会における音楽教育の課題について思索することができるようになる (DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割)。 2. 音楽教育の現代的課題についてリサーチクエスチョンを立てることができ、それに関連するデータを収集し分析することができるようになる (DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力)。 3. 音楽教育の現代的課題について、発達の、社会的、歴史的視点を持って考察でき、音楽を視点とした保育者・教育者の役割を総合的に自覚し、他者と協働しながら使命感と責任感を持って適切な行動ができるようになる (DP3 リーダーシップ)。	1. 現代社会における音楽教育の課題について思索することができるようになる (DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割)。 2. 音楽教育研究に関連するデータを収集し分析することができるようになる (DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力)。 3. 音楽を視点とした保育者・教育者の役割を総合的に自覚し、他者と協働しながら使命感と責任感を持って適切な行動ができるようになる (DP3 リーダーシップ)。
表現文化研究演習B	家政学研究科 児童学専攻	1	2	造形における多様な表現技術の中から適正なものを選び、それを基盤に子どもに向けた造形活動を検討・企画し、実践する。企画者でありながらもファシリテーターとして活動への関わりを確認しながら、活動に付随する表現技術の改良・展開とともにその活動意図や子どもの関わりを考証し、子どもに適切な造形活動を提案する。そして文献や参考事例との比較検証と、実践活動を収めた記録メディアによる発表から討議検証を行う。	1.子どもに向けた造形活動の組み立てから実践に向けて適正な企画を立案することができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 2.活動における子どもの個別性から集団性への移行と協同性について適正に理解できるようになる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 3.活動の展開や改良などをファシリテーターとして討議・検証して活動を設定し、他者と協働して展開することができる。(DP3 リーダーシップ)	1.子どもに向けた造形活動の組み立てから実践に向けて適正な企画を立案して行うことができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 2.活動における子どもの個別性から集団性への移行と協同性について適正に理解できるようになる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 3.活動の展開や改良などを他者と協働して行うことができる。(DP3 リーダーシップ)
教育学演習	家政学研究科 児童学専攻	1	2	歴史的・原理的な基礎的理解をもとにして、現代社会における教育・保育のあり方や子どものおかれた現状、地域社会と学校の関係等を踏まえながら、教育・保育の未来を構想する力を養うことを目標とする。	1.教育学をとりえる先行研究について、その理論を中心に、知識と分析視点を十分に習得している。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 2.教育制度などに関する幅広い知識をもとに、現実の教育政策の動向やその結果を客観的に分析する思考力を十分に身につけている。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 3.教育政策の動向に関わる情報を積極的に収集し、理論とデータに照らして正確に分析する技能を習得している。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 4.分析の結果を論述することを通じて、分析知見の発信のための準備が十分にできる。(DP3 リーダーシップ)	1.教育学をとりえる先行研究について、その理論を中心に、基本的な知識と分析視点を習得している。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 2.教育制度などに関する基本的知識をもとに、現実の教育政策の動向やその結果を分析する思考力を身につけている。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 3.教育政策の動向に関わる情報を収集し、理論とデータに照らして分析する技能を習得している。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 4.分析の結果を論述することを通じて、分析知見の発信のための準備ができる。(DP3 リーダーシップ)
教育学特論	家政学研究科 児童学専攻	1	2	教育の根本的な原理を、歴史的・文化的・社会的な視点からとらえ直し、教育行為を体系的に分析することを旨とし「教育学」の学問的基盤を理解したうえで、現代的教育・保育が抱えている諸問題とは何かを考察する力を養うことを目標とする。	1.現代社会における教育の課題を深く理解できるようになる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2.現代社会における教育の課題に実践的にどのように対応したらよいかを主体的に判断できるようになる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)	1.現代社会における教育の課題を理解できるようになる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2.現代社会における教育の課題に実践的にどのように対応したらよいかを判断できるようになる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力)
臨床事例研究	家政学研究科 児童学専攻	1	2	児童学領域の文献講義、討論を通して自らの研究課題を見出し、研究目的および研究方法を決める。そのデータ収集や分析の結果を随時演習形式で発表し、討論を行い考察を深める。	1.広い視野に立ち、高い倫理観とともに、保育・教育・福祉及び発達臨床に関する高度な学識を身につける。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2.家政学に視座をおいた児童学研究の課題を設定し、主体的に研究を進めることができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3.保育・教育・福祉及び発達臨床に関する学術的研究を通して、人間的・社会的意義を見出すことができる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 4.主体的に発表のレジュメを作成し、効果的にプレゼンテーションをすることができる。自分の独自の考えをまとめて、グループディスカッションすることができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 5.専門的な知識・技能の異なる他者と協働して課題に取り組み、計画的に行動することで、広く社会に貢献することができる。(DP3 リーダーシップ)	1.広い視野に立ち、倫理観とともに、保育・教育・福祉及び発達臨床に関する学識を身につける。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2.家政学に視座をおいた児童学研究の課題を設定し、研究を進めることができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3.保育・教育・福祉及び発達臨床に関する学術的研究を通して、人間的・社会的意義を見出すことができる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 4.主体的に発表のレジュメを作成し、効果的にプレゼンテーションをすることができる。グループディスカッションすることができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 5.専門的な知識・技能の異なる他者と協働して課題に取り組み、計画的に行動することで、広く社会に貢献することができる。(DP3 リーダーシップ)
児童学特別研究	家政学研究科 児童学専攻	1	10	児童学領域の文献講義、討論を通して研究課題を見出し、研究目的および研究方法を決める。データ収集や分析の結果を随時演習形式で発表し、討論や考察を行う。児童学に関する基本的な知識を確認した後、現代社会における子どもへの支援についての諸課題について演習形式の授業展開で理解を深めていく。授業方法としては、子どもに関する文献および資料を講読し、レジュメをもとに発表や討議を行う。	1.広い視野に立ち、高い倫理観とともに、保育・教育・福祉及び発達臨床に関する高度な学識を身につける。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) 2.児童学に関する研究領域の文献を批判的思考に基づいた探求姿勢で読み、主体的にレビューすることができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3.保育・教育・福祉及び発達臨床に関する学術的研究を通して、人間的・社会的意義を見出すことができる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 4.批判的思考に基づいて探究しながら、その成果を修士論文としてまとめることができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 5.専門的な知識・技能の異なる他者と協働して課題に取り組み、計画的に行動することで、広く社会に貢献することができる。(DP3 リーダーシップ)	1.児童学に関する研究領域の文献を批判的思考に基づいた探求姿勢で読み、レビューすることができる。(DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 3.保育・教育・福祉及び発達臨床に関する学術的研究を通して、人間的・社会的意義を見出すことができる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) 4.批判的思考に基づいて探究しながら、その成果を修士論文としてまとめることができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 5.専門的な知識・技能の異なる他者と協働して課題に取り組み、計画的に行動することで、広く社会に貢献することができる。(DP3 リーダーシップ)
身体機能論1 (病態生理研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	日本食文化と健康に関する最新知識を習得し、科学的研究手法及び統計学的手法について議論する。日本食の健康効果について、特に高血圧、インスリン感受性の低下、脂質代謝異常及び肥満に対する効果や臓器保護の観点から科学的に、かつ批判的に評価し、理想的な食生活のあり方について考える。さらに、国際的英文論文の検索と読み方について実践的に輪読、講義する。本講義では、食品の機能性成分のみならず、食品としての総合的な健康への有効性についても考察する。	1.授業のテーマに関する英語論文を理解できる。一般英語の読解力のみならず、専門用語も80%以上理解できる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) (DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 2.身体機能 (病態生理) に関する先導的な研究について、批判的に評価し、自らの研究に生かすことができる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) (DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 3.栄養学や医学の広い範囲の英語の研究論文を自ら探索し、幅広い教養を身に蓄積することができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) (DP3 リーダーシップ)	1.授業のテーマに関する英語論文を理解できる。一般英語の読解力のみならず、専門用語も60%以上理解できる。(DP1-1 客観性・自律性一学識と倫理) (DP1-2 客観性・自律性一主体的判断力) 2.身体機能 (病態生理) に関する先導的な研究について、内容を素直に評価し、自らの研究に生かすことができる。(DP2-1 課題発見・解決力一社会的役割) (DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) 3.栄養学や医学の興味ある英語の研究論文を自ら探索し、幅広い教養を身に蓄積することができる。(DP2-2 課題発見・解決力一課題解決力) (DP3 リーダーシップ)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
身体機能Ⅱ (物質代謝研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	「生活習慣病」という概念は、これまで「成人病」対策として二次予防 (病気の早期発見・早期治療) に重点を置いていた従来の対策に加え、生活習慣病の改善を目指す一次予防 (健康増進・発病予防) 対策を推進するために新たに導入された概念である。「栄養」は生活習慣に関わる要素として非常に重要であり、「物質代謝異常」と生活習慣病との関わりも深い。本講では、「生活習慣病」「栄養素の代謝」「様々な細胞死」「酸化ストレス (活性酸素)」などをキーワードとして、生活習慣病およびその防御に関わる物質代謝メカニズムのトピックについて議論し、課題解決力の修得を目指す。	1. がんや糖尿病性血管障害などの生活習慣病について総合的に理解し、その病態について学術的に説明することができる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理、DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) 2. 生活習慣病の最先端の話題について関心を持ち、自分の考えについて説明することができる。(DP1-2客観性・自律性一主体的判断力、DP2-2課題発見・解決力一課題解決力、DP3リーダーシップ) 3. 生活習慣病について、病態とその防御に関して課題を見つけ、その解決策を科学的に議論することができる。(DP2-1課題発見・解決力一社会的役割、DP2-2課題発見・解決力一課題解決力)	1. がんや糖尿病性血管障害などの生活習慣病について総合的に理解することができる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理、DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) 2. 生活習慣病の最先端の話題について、自分の考えを持つことができる。(DP1-2客観性・自律性一主体的判断力、DP2-2課題発見・解決力一課題解決力、DP3リーダーシップ) 3. 生活習慣病について課題を見つけ、基礎的な議論に参加することができる。(DP2-1課題発見・解決力一社会的役割、DP2-2課題発見・解決力一課題解決力)
身体機能Ⅲ (健康科学研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	公衆栄養学領域における研究をおこなうにあたり、地域集団の公衆栄養アセスメント、公衆栄養プログラムの目標設定・計画・評価の公衆栄養マネジメントを教授する。特に、公衆栄養アセスメントである、食事調査、身体活動量調査、健康度アセスメントについて学ぶ。疫学的手法、統計学的手法は、各マネジメントサイクルに必須の手法である。	1. 再現性や妥当性を含めて、種々の食事調査、身体活動量調査および健康度アセスメント方法を体系的かつ論理的に説明できる(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理、DP1-2客観性・自律性一主体的判断力)。2. リサーチエッセッションに対応し、実行可能な疫学研究方法と科学的に妥当な統計手法を選択できる(DP2-1課題発見・解決力一社会的役割、DP2-2課題発見・解決力一課題解決力、DP3リーダーシップ)。	1. 再現性や妥当性を含めて、種々の食事調査、身体活動量調査および健康度アセスメント方法を説明できる(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理、DP1-2客観性・自律性一主体的判断力)。2. リサーチエッセッションに対応した疫学研究方法と統計手法を選択できる(DP2-1課題発見・解決力一社会的役割、DP2-2課題発見・解決力一課題解決力、DP3リーダーシップ)。
身体機能Ⅳ (応用生理研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	人体の生理機能に関する分野の最先端の研究動向を食物栄養学の観点から探索し、その科学的な方法論や将来における重要性を議論する。まず、解剖生理学、病理学に関する知識を、英語論文を主体に習得し、さらに先端的研究についてレビューし、自らの研究に生かしていく。同時に、栄養学、医学の広い範囲にも関心を持っていく。	1. 解剖生理学、病理学に関する英語論文を理解できる。一般英語の読解力のみならず、専門用語も80%以上理解できる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理) (DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) 2. 身体機能 (応用生理) に関する先端的研究について、批判的に評価し、自らの研究に生かすことができる。(DP2-1課題発見・解決力一社会的役割) (DP2-2課題発見・解決力一課題解決力) 3. 栄養学や医学の広い範囲の英語の研究論文を自ら探索し、幅広い教養を身に着けることができる。(DP2-2課題発見・解決力一課題解決力) (DP3リーダーシップ)	1. 解剖生理学、病理学に関する英語論文を理解できる。一般英語の読解力のみならず、専門用語も60%以上理解できる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理) (DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) 2. 身体機能 (応用生理) に関する先端的研究について、内容を素直に評価し、自らの研究に生かすことができる。(DP2-1課題発見・解決力一社会的役割) (DP2-2課題発見・解決力一課題解決力) 3. 栄養学や医学の興味ある英語の研究論文を自ら探索し、幅広い教養を身に着けることができる。(DP2-2課題発見・解決力一課題解決力) (DP3リーダーシップ)
生活主体者Ⅰ (人間発達研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	乳児期から児童期を中心に、発達および発達臨床学における諸理論を講義する。また、当該領域の最新の研究動向を理解するため、関連文献の研究を行う。さらに、発達臨床の実践と研究を結びつけるため実際の事例を理論的に検討する。	1. 乳児期から児童期の発達および発達臨床の課題に関心を持ち、文献研究を通して問題の所在を説明し、自ら研究課題を見出すことができる。(DP2-1課題発見・解決力一社会的役割) (DP2-2課題発見・解決力一課題解決力) 2. 乳児期から児童期の発達及び発達臨床学における諸理論を理解し、実際の事例について理論的に説明することができる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理) (DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) (DP3リーダーシップ)	1. 乳児期から児童期の発達および発達臨床の課題に関心を持ち、文献研究を通して問題の所在を説明し、研究課題を見出すことができる。(DP2-1課題発見・解決力一社会的役割) (DP2-2課題発見・解決力一課題解決力) 2. 乳児期から児童期の発達及び発達臨床学における諸理論を理解し、実際の事例について説明することができる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理) (DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) (DP3リーダーシップ)
生活主体者Ⅱ (社会福祉研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	我が国における本格的な社会福祉研究は、1950年代以降のことである。これまでに提示された社会福祉の主要な理論を振り返ることをおとし社会福祉の基本的視点、理論的枠組について考える。社会福祉が、その思想、制度の史的展開という文脈の中で、どのように位置づけられてきたかを分析する。一人の人間が社会の中で生きていくために充たされなければならない基本的な欲求(要請)が充たされない状況に対して、その時代の社会はどのように応えてきたのか、児童福祉の分野を中心に考えてみる。	1. 社会福祉の主要な理論の変遷を踏まえた上で、「学」としての今日の社会福祉を総合的に理解できるようにする。(DP1-2客観性・自律性一主体的判断力、DP2-1課題発見・解決力一社会的役割) 2. 研究者・実践家としての高度な専門性を総合的に修得することができるようになる。(DP2-2課題発見・解決力一課題解決力) 3. 研究者・実践家としての倫理観と社会性を総合的に習得することができるようになる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理) (DP3リーダーシップ)	1. 社会福祉の主要な理論の変遷を踏まえた上で、「学」としての今日の社会福祉の基礎を理解できるようにする。(DP1-2客観性・自律性一主体的判断力、DP2-1課題発見・解決力一社会的役割) 2. 研究者・実践家としての高度な専門性の基礎を修得することができるようになる。(DP2-2課題発見・解決力一課題解決力) 3. 研究者・実践家としての倫理観と社会性の基礎を習得することができるようになる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理) (DP3リーダーシップ)
生活主体者Ⅲ (人間形成研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	人間形成に関して、臨床発達心理学における知見や諸理論について講義する。また、乳児期から青年期までの人間形成についての最新の研究動向を理解するため、心理学の関連文献から先行研究をレビューする。	1. 乳児期から青年期までの人間形成に関する諸理論を十分に理解することができる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理) 2. 当該領域の最新の研究動向を体系的にレビューすることができる。(DP2-1課題発見・解決力一社会的役割) 3. 先行研究のレビューをもとに、当該研究領域において各自が関心を持った研究テーマについて問題の所在を批判的思考力に基づいて説明することができる。(DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) (DP2-2課題発見・解決力一課題解決力) (DP3リーダーシップ)	1. 乳児期から青年期までの人間形成に関する諸理論がある程度理解することができる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理) 2. 当該領域の最新の研究動向がある程度レビューすることができる。(DP2-1課題発見・解決力一社会的役割) 3. 当該研究領域において各自が関心を持った研究テーマについて問題の所在がある程度説明することができる。(DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) (DP2-2課題発見・解決力一課題解決力) (DP3リーダーシップ)
生活主体者Ⅳ (発達科学研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	人間発達の心理的・行動的特徴やメカニズムを明らかにしてきた発達心理学は、近年、発達を多面的、総合的な変化として捉えようとする「発達科学」の福立へ向け進展している。本講義では、最近の行動発達学や神経科学などの知見も含め、発達科学に関する国内外の研究動向についてレビューし、障害の有無にかかわらず多様な発達の経路をどのように捉えるか、全体的な人間理解に立ち戻ることができるようにしつつ、個々のパターンを取り出すにはどのような枠組みが必要かなどについて議論する。	1. 発達心理学から発達科学への変遷について説明できる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理) (DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) (DP3リーダーシップ) 2. 発達科学に関する国内外の最新の研究動向に関する情報を収集することができる。(DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) 3. 各自の研究関心を具体的に説明し、「発達科学」の最新の研究動向に位置づけることができる。(DP2-1課題発見・解決力一社会的役割) 4. 近年の発達科学における題を見出すことができる。(DP2-2課題発見・解決力一課題解決力)	1. 発達心理学から発達科学への変遷について説明できる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理) (DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) (DP3リーダーシップ) 2. 発達科学に関する最新の研究動向に関する情報を収集することができる。(DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) 3. 各自の研究関心を説明し、「発達科学」の研究動向に位置づけることができる。(DP2-1課題発見・解決力一社会的役割) 4. 各自の研究関心を「発達科学」との関連で説明することができる。(DP2-2課題発見・解決力一課題解決力)
生活文化Ⅰ (生活空間研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	持続可能な社会の達成には「生活の質の向上」が必要条件と考えられるが、その中で「住環境の改善」は建築計画や地域計画が深く関係する。この授業では、環境への負荷の削減や社会のあり方などを視野に入れた「住環境の改善」について研究を行い、それらの提案を示す。	・環境への負荷の削減や社会のあり方などを視野に入れた「住環境の改善」について、広い視野と卓越した学識を身につけている。(客観性・自律性一学識と倫理) ・環境への負荷の削減や社会のあり方などを視野に入れた「住環境の改善」に関して、主体的に思考し、自律的に行動することができる。(客観性・自律性一主体的判断力) ・事例より環境への負荷の削減や社会のあり方などの問題点を導き出し、住環境の改善について自分なりの方法論を提示することができる。(課題発見・解決力一社会的役割) ・導き出した方法論を応用し、「住環境の改善」の提案を示すことができる。(課題発見・解決力一課題解決力) ・自立した研究者として主体的に他者と協働し、責任感を持って住環境の改善に関して応用できる方法論を導き出すことができる。(リーダーシップ)	・環境への負荷の削減や社会のあり方などを視野に入れた「住環境の改善」について、広い視野と卓越した学識をある程度身につけている。(客観性・自律性一学識と倫理) ・環境への負荷の削減や社会のあり方などを視野に入れた「住環境の改善」に関して、主体的に思考し、ある程度自律的に行動することができる。(客観性・自律性一主体的判断力) ・事例より環境への負荷の削減や社会のあり方などの問題点を導き出し、住環境の改善について自分なりの方法論をある程度提示することができる。(課題発見・解決力一社会的役割) ・導き出した方法論を応用し、「住環境の改善」の提案をある程度提示することができる。(課題発見・解決力一課題解決力) ・自立した研究者として主体的に他者と協働し、責任感を持って住環境の改善に関して応用できる方法論をある程度導き出すことができる。(リーダーシップ)
生活文化Ⅱ (生活環境形成研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	少子高齢化に伴う建築や都市の変化の中で、快適な人間の生活環境を獲得することはこれからの時代、非常に重要なトピックとなる。そのためには過去に展開された様々な知見や理論を知るとともに、現代における地域の問題や課題を抽出し、それらを解決に近づけるための新しい方法論を構築していくことが必要である。本講義では、人間が自らの生活環境をよりよいものに近づけるためのどのような手法を用いたのか、国内外における過去の様々な事例について理解すると共に、実際の地域を調査し、その地域環境を改善するための手法を身につける。	・生活環境と建築・都市空間の関係を導き出すための幅広い視野と学識を身につけている。(客観性・自律性一学識と倫理) ・生活環境と建築・都市空間の関係を導き出すために、社会の変化に対応して主体的に思考し、自律的に行動することができる。(客観性・自律性一主体的判断力) ・事例より生活環境と建築・都市空間の関係を導き出し、地域課題の解決に対して自分なりの方法論を提示することができる。(課題発見・解決力一社会的役割) ・導き出した方法論を実際の地域に適用し、その地域の課題を解決することができる。(課題発見・解決力一課題解決力) ・自立した研究者として他者と協働し、責任感を持って地域環境を解決する方法論を導き出すことができる。(リーダーシップ)	・生活環境と建築・都市空間の関係を導き出すための幅広い視野と学識をある程度身につけている。(客観性・自律性一学識と倫理) ・生活環境と建築・都市空間の関係を導き出すために、社会の変化に対応して主体的に思考し、自律的に行動することができる。(客観性・自律性一主体的判断力) ・事例より生活環境と建築・都市空間の関係を導き出し、地域課題の解決に対して自分なりの方法論をある程度提示することができる。(課題発見・解決力一社会的役割) ・導き出した方法論を実際の地域に適用し、その地域の課題をある程度解決することができる。(課題発見・解決力一課題解決力) ・自立した研究者として他者と協働し、責任感を持って地域環境を解決する方法論をある程度導き出すことができる。(リーダーシップ)
生活文化Ⅲ (生活デザイン研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	生活デザインの中でも衣食住は欠かせない分野である。衣食住について、被服デザインとファッションデザインの2つの観点から先行研究を検査していく。また、ファッション産業を取り巻く環境が大きく変化している現状を探りながら、企画発想から製品設計、生活者へのアプローチの仕方で、検討する。他業界事例も含めて調査・検証を行う。さらにこれらの調査をもとに新しい企画を創造し、検討する。	1. 学術論文等の文献を精読し、その内容を理解した上で、新規かつ有用な情報について説明ができる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理) (DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) (DP3リーダーシップ) 2. 被服デザインとファッションデザインの概念を理解し、事例を挙げて具体的な提示をしながら説明できる。(DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) (DP3リーダーシップ) 3. 市場動向の分析方法を理解、実践して新しい視点で企画・デザイン提案ができる。(DP2-2課題発見・解決力一社会的役割一課題解決力) (DP3リーダーシップ)	1. 学術論文等の文献を精読し、その内容を理解した上で、有用な情報について説明ができる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理) (DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) (DP3リーダーシップ) 2. 被服デザインとファッションデザインの概念を理解し、説明できる。(DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) (DP3リーダーシップ) 3. 市場動向の分析方法を理解、実践して企画・デザイン提案ができる。(DP2-2課題発見・解決力一社会的役割一課題解決力) (DP3リーダーシップ)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
生活文化論Ⅳ (人間空間デザイン研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	建築をとりまく空間は多種多様であるが、特に人間にとって快適な場を創造することは極めて重要である。人の場に対するイメージが、知覚、行動、過去の経験などが複合したプロセスを経て決定される以上、その本質を理解し、解決できる能力を養うことが大切である。生活文化論Ⅳでは、それらのことを踏まえ、必要な知識や技術を講じ、空間の在り方について様々な視点から考察する。	・人と環境との関係を総合的に捉え、人間の心理や行動の特性に関する幅広い視野と学識を身につけている。(客観性・自律性一学識と倫理) ・環境に関わる諸課題を導き出すために、社会の変化に対応して主体的に思考し、自律的に行動することができる。(客観性・自律性一主体的判断力) ・事例より、人間の心理や行動の特性の関係を導き出し、環境に関わる諸課題を論理的に考察、判断する能力を育成し、自分なりの方法論を提示することができる。(課題発見・解決力一社会的役割) ・導き出した方法論とともに、人間の心理や行動、環境に関わる諸課題を解決できる能力を育成することができるようになる。(課題発見・解決力一課題解決力) ・自立した研究者として他者と協働し、責任感を持ってより質の高い快適な環境を計画、デザインする方法論を導き出すことができる(リーダーシップ)	・人と環境との関係を総合的に捉え、人間の心理や行動の特性に関する幅広い視野と学識をある程度身につけている。(客観性・自律性一学識と倫理) ・環境に関わる諸課題を導き出すために、社会の変化に対応して主体的に思考し、自律的に行動することができる。(客観性・自律性一主体的判断力) ・事例より、人間の心理や行動の特性の関係を導き出し、環境に関わる諸課題を論理的に考察、判断する能力を育成し、ある程度自分なりの方法論を提示することができる。(課題発見・解決力一社会的役割) ・導き出した方法論とともに、人間の心理や行動、環境に関わる諸課題を解決できる能力をある程度育成することができるようになる。(課題発見・解決力一課題解決力) ・自立した研究者として他者と協働し、責任感を持ってより質の高い快適な環境を計画、デザインする方法論をある程度導き出すことができる(リーダーシップ)
生活文化論Ⅴ (生活環境研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	生活をサポートする建築には、自然環境・都市環境・人工環境(機械設備等)・生活スタイル(機能・家族構成・ライフステージ・趣味嗜好)など様々な環境(要因)が関係している。これらは全て生活環境であり、生活環境が複雑に絡み合い、「空間」・「形態」そしてその空間に必要な「もの」が割り出される。生活環境をバランスよく理解し解決した優れた建築が持続可能な居心地の良い場を創り出している。持続可能な居心地の良い建築を創り出すためには、建築を取り巻く生活環境を理解した上で、現代における生活環境の問題や課題を自分なりに抽出し、それらを解決する新しい方法論を導き出す必要がある。その場の生活環境をバランスよく理解し解決した優れた建築空間が持続可能な居心地の良い場を創り出している。様々な文化を背景に持つ優れた建築空間の事例を比較することから、文化と建築空間の関係を導き出し自分なりの方法論を提示し、実際の建築を創る手法を身につける。	・持続可能な居心地の良い建築を創り出すための広い視野と卓越した学識を身につけている。(客観性・自律性一学識と倫理) ・持続可能な居心地の良い建築を創り出すために、社会の変化に対応して主体的に思考し、自律的に行動することができる。(客観性・自律性一主体的判断力) ・事例より生活環境が生み出す「空間」・「形態」そしてその空間に必要な「もの」との関係を導き出し、持続可能な居心地の良い建築を創り出す自分なりの方法論を提示することができる。(課題発見・解決力一社会的役割) ・導き出した方法論を実際の設計に应用し、持続可能な居心地の良い建築を創り出すことができる。(課題発見・解決力一課題解決力) ・自立した研究者として主体的に他者と協働し、責任感を持って設計の応用できる方法論を導き出すことができる(リーダーシップ)	・持続可能な居心地の良い建築を創り出すための視野と学識をある程度身につけている。(客観性・自律性一学識と倫理) ・持続可能な居心地の良い建築を創り出すために、社会の変化に対応して主体的に思考し、自律的にある程度行動することができる。(客観性・自律性一主体的判断力) ・事例より生活環境が生み出す「空間」・「形態」そしてその空間に必要な「もの」との関係を導き出し、持続可能な居心地の良い建築を創り出す自分なりの方法論をある程度提示することができる。(課題発見・解決力一社会的役割) ・導き出した方法論を実際の設計に应用し、持続可能な居心地の良い建築をある程度創り出すことができる。(課題発見・解決力一課題解決力) ・自立した研究者として他者と協働し、責任感を持って設計の応用できる方法論を導き出すことができる(リーダーシップ)
生活文化論Ⅵ (生活文化比較研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	文化を「技術を通して自然を人間の生活目的に役立てて行く過程で形作られた、生活様式およびそれに関する表現。」と捉えると建築は必ずある環境(社会・文化・自然)の中に建つため、その建物がつく文化によりその形態は様々である。その場の生活環境をバランスよく理解し解決した優れた建築空間が持続可能な居心地の良い場を創り出している。様々な文化を背景に持つ優れた建築空間の事例を比較することから、文化と建築空間の関係を導き出し自分なりの方法論を提示し、実際の建築を創る手法を身につける。	・文化と建築空間の関係を導き出すための幅広い視野と学識を身につけている。(客観性・自律性一学識と倫理) ・文化と建築空間の関係を導き出すために、社会の変化に対応して主体的に思考し、自律的に行動することができる。(客観性・自律性一主体的判断力) ・事例より文化と建築空間の関係を導き出し、持続可能な居心地の良い建築を創り出す自分なりの方法論を提示することができる。(課題発見・解決力一社会的役割) ・導き出した方法論を実際の設計に应用し、持続可能な居心地の良い建築を創り出すことができる。(課題発見・解決力一課題解決力) ・自立した研究者として他者と協働し、責任感を持って設計の応用できる方法論を導き出すことができる(リーダーシップ)	・文化と建築空間の関係を導き出すための視野と学識をある程度身につけている。(客観性・自律性一学識と倫理) ・文化と建築空間の関係を導き出すために、社会の変化に対応して主体的に思考し、自律的にある程度行動することができる。(客観性・自律性一主体的判断力) ・事例より文化と建築空間の関係を導き出し、持続可能な居心地の良い建築を創り出す自分なりの方法論をある程度提示することができる。(課題発見・解決力一社会的役割) ・導き出した方法論を実際の設計に应用し、持続可能な居心地の良い建築を創り出すことができる。(課題発見・解決力一課題解決力) ・自立した研究者として他者と協働し、責任感を持って設計の応用できる方法論を導き出すことができる(リーダーシップ)
生活文化論Ⅶ (生活経済研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	建築は人間の生活を支えるための器であるが、わが国の近代化が始まった明治時代から「人口は増加する」という前提のもと、社会経済とともに建築空間も発展してきた。しかし、右肩上がりが増え続けた日本の人口は2008年前後をピークに減少へと転じ、今後首都圏と地方における人口差は加速するとともに、建築のあり方はますます多様化していくといえよう。近代日本において成立した建築計画書の産物でもある公共建築を事例としてとりあげ、社会経済の変化と共にそれらの計画がどのように更新され、今後どのような方向に進むのかについて議論する。	・戦後日本における経済も含めた社会的背景と公共建築との関係を導き出すための幅広い視野と学識を身につけている。(客観性・自律性一学識と倫理) ・公共建築の更新と経済との関係を導き出すために、社会の変化に対応して主体的に思考し、自律的に行動することができる。(客観性・自律性一主体的判断力) ・事例より公共建築の大量更新に伴う都市経営に及ぼす影響を導き出し、地域課題の解決に対して自分なりの方法論を提示することができる。(課題発見・解決力一社会的役割) ・導き出した方法論を実際の地域に应用し、その地域の課題を解決することができる。(課題発見・解決力一課題解決力) ・自立した研究者として他者と協働し、責任感を持ってこれからの都市経営という観点からの公共建築計画に関する方法論を導き出すことができる(リーダーシップ)	・戦後日本における経済も含めた社会的背景と公共建築との関係を導き出すための幅広い視野と学識をある程度身につけている。(客観性・自律性一学識と倫理) ・公共建築の更新と経済との関係を導き出すために、社会の変化に対応して主体的に思考し、自律的にある程度行動することができる。(客観性・自律性一主体的判断力) ・事例より公共建築の大量更新に伴う都市経営に及ぼす影響を導き出し、地域課題の解決に対して自分なりの方法論をある程度提示することができる。(課題発見・解決力一社会的役割) ・導き出した方法論を実際の地域に应用し、その地域の課題をある程度解決することができる。(課題発見・解決力一課題解決力) ・自立した研究者として他者と協働し、責任感を持ってこれからの都市経営という観点からの公共建築計画に関する方法論をある程度導き出すことができる(リーダーシップ)
食生活素材論Ⅰ (食品素材研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	食品成分表に記載されている食品成分の分析法について学ぶとともに、液体クロマトグラフィー、ガスクロマトグラフィー等の機器分析の手法について包括的に学ぶ。	1.食品成分の分析法について、学部学生、修士学生に説明できる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理、DP1-2客観性・自律性一主体的判断力、DP2-2課題発見・解決力一課題解決力、DP3リーダーシップ) 2.機器分析法について、学部学生、修士学生に説明できる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理、DP2-1課題発見・解決力一社会的役割、DP2-2課題発見・解決力一課題解決力、DP3リーダーシップ)	1.食品成分の分析法について説明できる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理、DP1-2客観性・自律性一主体的判断力、DP2-1課題発見・解決力一社会的役割、DP2-2課題発見・解決力一課題解決力、DP3リーダーシップ)
食生活素材論Ⅱ (食品機能研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	食品には、第一次機能(栄養性)や第二次機能(嗜好性)のほかに、第三次機能として生体生理調節機能がある。本講では、ヒトの身体構造や生理機能に寄与する食品成分について、国内外の学術的知見を体系的に理解する。また、食品の様々な技術(乳酸菌発酵・分離・酵素反応など)で加工処理することによって、新たに生成する生理活性成分についても包括的に学ぶ。	1.食品の第三次機能について、各国の許認可制度を含めて総合的内容を説明できる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理、DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) 2.特定保健用食品として許可されているすべての関与成分について、総合的内容を説明できる。(DP2-1課題発見・解決力一社会的役割、DP2-2課題発見・解決力一課題解決力) 3.食品の様々な加工技術によって新たな機能成分が生成するしくみについて、総合的内容を説明できる。(DP2-1課題発見・解決力一社会的役割、DP2-2課題発見・解決力一課題解決力、DP3リーダーシップ)	1.食品の第三次機能について、基礎的内容を説明できる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理、DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) 2.特定保健用食品として許可されている数種類の関与成分について、基礎的内容を説明できる。(DP2-1課題発見・解決力一社会的役割、DP2-2課題発見・解決力一課題解決力) 3.食品の発酵技術によって新たな機能成分が生成するしくみについて、基礎的内容を説明できる。(DP2-1課題発見・解決力一社会的役割、DP2-2課題発見・解決力一課題解決力、DP3リーダーシップ)
食生活素材論Ⅲ (食品微生物研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	バイオテクノロジーの進歩により、微生物を利用した新たな食品素材、加工食品、食品添加物が日々生み出されている。これらについての最新の知見を国内外の文献を通して理解する。また食品を保存するための方法、特に微生物汚染の防除方法について、文献を通して具体的に学ぶ。	1.微生物の発酵食品の製造方法について、最新の知見を振り返り食品ごとに具体的に説明できる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理、DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) 2.微生物を用いた物質生産について、最新の知見を振り返り物質ごとに具体的に説明することができる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理、DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) 3.微生物汚染の防除方法について、最新の知見を振り返り微生物の生態を絡めて具体的に説明することができる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理、DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) 4.微生物による物質生産に関する専門書や論文を読み、必要とされる課題をまとめて他者に説明でき、その解決方法を提示し議論することができる。(DP2-1課題発見・解決力一社会的役割、DP2-2課題発見・解決力一課題解決力、DP3リーダーシップ)	1.微生物の発酵食品の製造方法について、最新の知見を振り返り説明できる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理、DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) 2.微生物を用いた物質生産について、最新の知見を振り返り説明することができる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理、DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) 3.微生物汚染の防除方法について、最新の知見を振り返り説明することができる。(DP1-1客観性・自律性一学識と倫理、DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) 4.微生物による物質生産に関する専門書や論文を読み、課題を調査して他者と解決方法を議論することができる。(DP2-1課題発見・解決力一社会的役割、DP2-2課題発見・解決力一課題解決力、DP3リーダーシップ)
食生活素材論Ⅳ (食品物理化学研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	食品について学ぶ場合、とすれば栄養成分などの化学的側面に目がいきがちだが、歯ごたえなどのテクスチャーは食物の二次機能(嗜好性)に大きく関与する。また、近年、社会の高齢化に伴って食物の咀嚼・嚥下機能が低下した高齢者が増加しており、そうした咀嚼・嚥下障害者用の介護食の合理的なテクスチャーデザインが求められている。本講義では、テクスチャー研究の最先端がまとめられた本を用いて、テクスチャー研究の方法論について学ぶ。この科目で得た知識は、食品のテクスチャーの実験や実務に活用できる。	1.食品テクスチャーの他の専門書や論文を読んで理解できる (DP1-1客観性・自律性一学識と倫理、DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) 2.食品の物性の概念について理解し例を挙げて説明できる (DP1-1客観性・自律性一学識と倫理) 3.嚥下困難者用介護食の基準や求められるテクスチャーに関して説明できる (DP2-1課題発見・解決力一社会的役割、DP2-2課題発見・解決力一課題解決力、DP3リーダーシップ)	1.食品テクスチャーの他の専門書や論文を調べながら概要を理解できる (DP1-1客観性・自律性一学識と倫理) 2.物性と物理量と差を理解できる (DP1-1客観性・自律性一学識と倫理、DP1-2客観性・自律性一主体的判断力) 3.嚥下困難者用介護食の基準や求められるテクスチャーに関して資料を見ながら説明できる (DP2-1課題発見・解決力一社会的役割、DP2-2課題発見・解決力一課題解決力、DP3リーダーシップ)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
衣生活素材論Ⅰ (被服素材研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	繊維の構造と物性に関する最新の研究事例を取り上げ、その内容の理解を通じて、高分子物理学の基礎と最新の分析機器を用いた解析技術について学習する。	1.最新の文献を精読し、その内容を理解した上で、新規かつ有用な情報について説明することができる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理)(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力)(DP3リーダーシップ) 2.繊維の微細構造に関して、すでに解明されていることを把握した上で、未解決問題について説明し、今後の展望について予測を述べることができる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割)(DP2-2課題発見・解決力-課題解決力)	1.最新の文献を精読し、その内容を説明することができる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理)(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力)(DP3リーダーシップ) 2.繊維の微細構造に関して、すでに解明されていることを説明することができる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割)(DP2-2課題発見・解決力-課題解決力)
衣生活素材論Ⅱ (被服管理研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	繊維製品の品質は、素材や染色・加工などの組み合わせで大きく異なり、消費サイクル(着用、洗濯、保存)により品質の変化が生じるため、適切に管理する必要がある。本科目では、学術論文の講読などを通して、染織品の劣化に及ぼす諸要因とその機構を整理するとともに、繊維製品の管理、洗濯、保存の現状と在り方を解説する。さらに、繊維製品の中でも貴重な歴史的遺産である染織文化財の染料や繊維素材などの分析法、保存、管理についても学習する。	1.最新の学術論文を講読し、その内容を正確に理解した上で、簡潔にまとめ、プレゼンテーションすることができる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理)(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力)(DP3リーダーシップ) 2.染織品の保存や繊維製品の管理に関して正しく理解し、実際の染織品を適切に管理するための課題を見出し、解決方法を自ら提案することができる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割)(DP2-2課題発見・解決力-課題解決力)	1.最新の学術論文を講読し、その内容をまとめ、プレゼンテーションすることができる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理)(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力)(DP3リーダーシップ) 2.染織品の保存や繊維製品の管理に関して理解し、説明することができる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割)(DP2-2課題発見・解決力-課題解決力)
衣生活素材論Ⅲ (被服機構研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	人間生活を快適で健康なものとするには、環境条件の影響は大きい。環境要因としては、自然環境および社会環境があるが、これらと家政学とのかわかりを被服に着眼を置きながら学習する。ヒト-被服-環境の関係を十分に理解したうえで着心地、快適性の定量的評価に関する研究遂行能力の醸成を目指す。	1.学術論文等の文献を精読し、その内容を理解した上で、新規かつ有用な情報について説明ができる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理)(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力)(DP3リーダーシップ) 2.ヒト-被服-環境の関係を正しく理解し、説明できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割)(DP3リーダーシップ) 3.評価方法や分析方法を理解し、目的に合わせて的確に分析することができる。(DP2-2課題発見・解決力-課題解決力)	1.学術論文等の文献を精読し、その内容を理解した上で、その情報について説明ができる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理)(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力)(DP3リーダーシップ) 2.ヒト-被服-環境の関係を理解し、説明できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割)(DP3リーダーシップ) 3.評価方法や分析方法を理解し、目的に合わせて分析することができる。(DP2-2課題発見・解決力-課題解決力)
食生活計画Ⅰ (調理設計研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	人間生活に密着した学問分野である調理学は、調理工程中の諸現象を科学的に解明し、法則性を見出し、調理設計の実際に役立つ理論を構築して食生活の充実・向上を図ることを目的とする。本科目では、主として調理における食品素材の変化を化学的、物理的ならびに組織学的に究明することにより調理機能を多面的に評価する研究の方法論について、主に研究論文(英文も含む)を通過することにより理解する。本科目は自ら調理学関連の研究を進めることができる高い研究能力、研究指導を行える力を身につけ、今後の研究生活に活かすことができる学修内容である。	1.調理学関連の研究例を体系的かつ理論的に説明できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 2.調理学関連の研究テーマを自ら決定し、資料調査・考察し、発表・議論できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力、DP3リーダーシップ)	1.調理学関連の研究例を簡単に説明できる(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 2.与えられた調理学関連の研究テーマについて、資料調査・考察し、発表・議論できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力、DP3リーダーシップ)
食生活計画Ⅱ (栄養教育研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	栄養教育とは、人々の健康の維持増進、および生活の質の向上を目的として、望ましい栄養状態と食行動の実現に向けて、人々の行動変容を支援する活動をいう。栄養教育を実施する上で必要とされる理論的基礎と研究を遂行していく上で必要な諸技術、知見を理解し、研究の基礎となる情報収集及び調査データの分析方法を身につける。	1.理論的基礎と研究を遂行していく上で必要な諸技術、知見を理解して、説明できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 2.情報収集及び調査データの分析ができる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 3.論文を書くことができる。(DP3リーダーシップ)	1.理論的基礎と研究を遂行していく上で必要な諸技術、知見を理解できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 2.情報収集及び調査データの分析方法が理解ができる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 3.論文の書き方が理解できる。(DP3リーダーシップ)
食生活計画Ⅲ (給食経営管理研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	給食経営において重要な管理対象となるのが設立であり、その品質の水準が経営に大きく関与する。そこで、給食経営管理領域における研究をおこなうにあたり、総合品質を設計品質と適合品質の点から捉え、その評価手法について構築し、給食のマネジメントについて考究する。	1.給食経営管理関連の研究例を体系的かつ理論的に説明できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 2.給食経営管理関連の研究テーマを自ら決定し、資料調査・考察し、英語で発表できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力、DP3リーダーシップ)	1.英文の給食経営管理関連の研究例を簡単に説明できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理、DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 2.与えられた給食経営管理関連の研究テーマについて、資料調査・考察し、英語で発表できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割、DP2-2課題発見・解決力-課題解決力、DP3リーダーシップ)
衣生活計画Ⅰ (服飾文化研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	文化的なアプローチを基本とし、服飾が持つ「衣服(装身具を含む)」と「装飾」というファクターに関して、深く考える。「衣服」というものについては、日本の衣服、特に「着物」及びその原形である「小袖」について、歴史的様式変化を実作品や絵巻資料、小袖模様図本などを通して考察する。また、「装飾」というものについては、模様の機能や種類、その歴史的変遷などを考える。	1.衣服に関する学術論文等の文献を精読し、その内容を理解した上で、新規かつ有用な情報について説明ができる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理)(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力)(DP3リーダーシップ) 2.衣服の生理的・形態的・機能的変化を正しく理解し、説明できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理)(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力)(DP3リーダーシップ) 3.小袖「着物」の実物調査や分析の方法を理解し、目的に合わせてこれらを活用することができる。(DP2-2課題発見・解決力-課題解決力)(DP3リーダーシップ) 4.衣服文化の変遷に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割)	1.学術論文等の文献を精読し、その内容を説明ができる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理)(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力)(DP3リーダーシップ) 2.人体の生理的・形態的・機能的変化を理解できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理)(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力)(DP3リーダーシップ) 3.衣服の調査方法や分析方法を理解することができる。(DP2-2課題発見・解決力-課題解決力)(DP3リーダーシップ) 4.衣服文化の変遷に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割)
衣生活計画Ⅱ (被服心理情報研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	日本における被服心理学は、本格的な研究が始まってまだ30年程度と、家政学の範疇においては、新しい分野に属し、次代を担う研究者の育成が重要な課題となっている。本授業では、被服心理学を本格的に学びたい学生のために、研究の基礎となる情報収集方法及び調査データの分析手法を中心に講義する。また、具体的理解を促進するため、最新の論文等を題材として、学生と内容の検討を図る。	被服心理学に関する基本的知識を身につけ、主体的に研究を進めることができるようになることを目的とする。具体的到達目標として、以下の5点を挙げる。 1.被服心理学の研究手法を理解し、先行研究の内容を十分理解し、その概要を説明できるようにする。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理) 2.被服心理学の研究手法を理解した上で、仮説検証のための調査設計、実行、結果の分析ができるようになる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 3.社会的・経済的価値の創出に向けて、被服心理学に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割) 4.課題解決に向けて、被服心理学に関する専門的な知識・技能を効果的に活用できる。(DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 5.専門的な知識・技能の異なる他者と協働し、被服心理学による課題解決や社会的・経済的価値の創出について建設的な議論ができる。(DP3リーダーシップ)	被服心理学に関する基本的知識を身につけて、主体的に研究を進めることができるようになることを目的とする。単位修得目標として、以下の2点を挙げる。 1.被服心理学の研究手法を理解し、先行研究の内容が理解できるようになる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理) 2.被服心理学の研究手法を理解した上で、仮説検証のための基本的な調査設計、実行、結果の分析ができるようになる。(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力) 3.社会的・経済的価値の創出に向けて、被服心理学に関する専門的な知識・技能を活用できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割) 4.課題解決に向けて、被服心理学に関する専門的な知識・技能を活用できる。(DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 5.専門的な知識・技能の異なる他者と協働し、被服心理学による課題解決や社会的・経済的価値の創出について議論ができる。(DP3リーダーシップ)
衣生活計画Ⅲ (被服造形研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	ヒトのライフステージ別に求められる衣服について造形学的視点から議論する。人体の生理的・形態的・機能的特徴や変化を定量的に捉えたとうえで、研究遂行のための評価方法や分析方法について学習する。	1.学術論文等の文献を精読し、その内容を理解した上で、新規かつ有用な情報について説明ができる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理)(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力)(DP3リーダーシップ) 2.人体の生理的・形態的・機能的変化を正しく理解し、説明できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理)(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割)(DP3リーダーシップ) 3.評価方法や分析方法を理解し、目的に合わせて的確に分析することができる。(DP2-2課題発見・解決力-課題解決力)	1.学術論文等の文献を精読し、その内容を説明ができる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理)(DP1-2客観性・自律性-主体的判断力)(DP3リーダーシップ) 2.人体の生理的・形態的・機能的変化を理解できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理)(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割)(DP3リーダーシップ) 3.評価方法や分析方法を理解し、目的に合わせて分析することができる。(DP2-2課題発見・解決力-課題解決力)
衣生活計画Ⅳ (被服情報工学研究)	家政学研究科 人間生活学専攻	1	2	ファッションプロダクト・サービスの企画、設計から、製造、流通、販売、消費に至る様々な過程で情報技術が利用され、技術革新により従来のファッション産業が大きく変貌している。この科目では、ファッションプロダクトのサプライチェーンやファッション関連サービスにおける技術課題を多面的に検討する。次に、コンピュータグラフィックス、コンピュータビジョン、マンラーニング等の先端事例を調査し、その動向を俯瞰的に整理する。調査分析に基づき、衣生活の将来展望について検討した上で、イノベティブなファッションプロダクト・サービスによる新たな価値の創出を目指す。	1.コンピュータグラフィックス、コンピュータビジョン、マンラーニング等の先端事例を調査する方法を修得し、応用ができる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理) 2.コンピュータグラフィックス、コンピュータビジョン、マンラーニング等の先端事例を調査調査した結果を俯瞰的に整理し、成果としてまとめることができる。(DP1-1客観性・自律性-主体的判断力) 3.ファッションプロダクトのサプライチェーンやファッション関連サービスにおける技術課題を多面的に検討して理解し、客観的、かつ、正確に説明ができる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割) 4.ファッションプロダクトのサプライチェーンやファッション関連サービスにおける技術課題について、効果的に解決する方法を検討して具体的に提案できる。(DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 5.当該分野の専門家と円滑なコミュニケーションができ、研究を発展させることができる。(DP3リーダーシップ) 6.ファッションプロダクトのサプライチェーンやファッション関連サービスにおける課題の解決に向けて、情報技術を活用した具体的な解決方法を提案して新しい価値を創出できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割)	1.コンピュータグラフィックス、コンピュータビジョン、マンラーニング等の先端事例を調査する方法を修得できる。(DP1-1客観性・自律性-学識と倫理) 2.コンピュータグラフィックス、コンピュータビジョン、マンラーニング等の先端事例を調査調査した結果を整理できる。(DP1-1客観性・自律性-主体的判断力) 3.ファッションプロダクトのサプライチェーンやファッション関連サービスにおける技術課題を検討して理解し、説明ができる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割) 4.ファッションプロダクトのサプライチェーンやファッション関連サービスにおける技術課題について、解決する方法を検討して提案できる。(DP2-2課題発見・解決力-課題解決力) 5.当該分野の専門家とコミュニケーションができ、研究を発展させることができる。(DP3リーダーシップ) 6.ファッションプロダクトのサプライチェーンやファッション関連サービスにおける課題の解決に向けて、情報技術を活用した解決方法を提案できる。(DP2-1課題発見・解決力-社会的役割)